YAMAHA

取扱説明書

⚠ ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

TTR 110

モーターサイクル

TT-R110E

BMA-28199-J0

重要項目ラベルの貼り付け位置 1
安全運転のために 2
各部の名称 3
各部の取り扱いと操作 4
日常点検 5
運転操作 6
点検整備 7
お車の手入れ 8
製品仕様 9
ユーザー情報 10
索引 11

はじめに

JAU99190

ヤマハ TT-R110E をお買いあげいただきありがとうございます。
この取扱説明書はお客様に車の操作、点検、整備をご理解いただけるよう作成されたものです。車の操作やメンテナンスなどに関するご質問は、ヤマハ販売店にお問い合わせください。
この車は一般市販車と異なり、クレーム保証の対象にはなりませんので、あらかじめご了承ください。また、定期点検制度、アフターサービスの対象外となりますので、各自が日頃の点検整備を行って常に最良の調子を保つように心掛けてください。

重要な事項：
- 車に乗る前に、この取扱説明書をよく読んで、説明を理解してください。
- 車に貼られている警告ラベル、注意ラベルをよくお読みください。
- 適切なトレーニングまたは教育を受けないで、車を操作しないでください。
- ライダーの体重は 60.0 kg を超えないようにしてください。

保護者の方へ重要なお知らせ：
この車は玩具ではありません。お子さんを車に乗らせる前に、保護者の方が取扱説明書の説明や警告を理解してください。その上でお子さんによく理解させ、またお子さんを補佐してください。子供たちは、能力、体力、判断力が 1 人 1 人異なります。車を安全に操作することができない子もいます。保護者の方は、いつもお子さんの車の使いかたを監督してください。お子さんが安全に車を操作できると判断したとしても、できる限り目を配ってください。
モーターサイクルは 2 輪の乗り物です。安全に使用、操作できるかどうかは、操作する人のライディングテクニックと経験にかかっています。全ての使用者は、この車に乗る前に以下の必要条件を知っておいてください。
守ってください：
- 車の操作のあらゆる局面について、あらゆる情報から学ぶこと。
- この取扱説明書の警告や点検整備の要件を遵守すること。
- 安全で正しいライディングテクニックのトレーニングを受けること。
- 取扱説明書に示される時期、あるいは車の状態に応じて必要なときに、プロの整備を受けること。

重要な情報

JAU45991

本書では、重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています：

⚠	**安全にかかわる注意情報を示してあります。**
⚠ 警 告	**取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**
注 意	**取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**
要　点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

要　点

- 本書は車両の一部として常に車両とともに保管しておき、人に車両を譲るときは、必ず本書も渡してください。
- ヤマハでは、常に製品の設計および品質の改善をめざしております。したがって、本書に記載されている情報は、本書を印刷した時点で最新のものであり、実際の車両と本書の情報に多少の違いが生じている可能性があります。本書に関する疑問点については、ヤマハ販売店にお問い合わせください。

JWA10032

⚠ 警 告

車を使用する前に、この取扱説明書をよくお読みください。

JWA14352

⚠ 警 告

この車両はオフロード専用です。国土交通省の認定は受けておりませんので、一般の道路、高速道路を走行すると道路交通法および道路運送車両法の違反となります。私道、神社の境内、公園、農道、堤防上など、いわゆる道路としての形態を整えていないところでも人や車が自由に出入りできるところは、一般の道路とみなされます。また、この車は騒音規制に適合しておりません。車を使用する前に、地方条例等を確認してください。

* 製品の仕様は、予告なしに変更されることがあります。

もくじ

重要項目ラベルの貼り付け位置...1-1

安全運転のために 2-1

各部の名称 3-1
左側面.....3-1
右側面.....3-2
運転装置と計器類.....3-3

各部の取り扱いと操作 4-1
メインスイッチ 4-1
ハンドルスイッチ.....4-1
シフトペダル.....4-2
ブレーキレバー 4-2
ブレーキペダル 4-3
フューエルタンクキャップ 4-3
燃料 4-4
フューエルタンク
ブリーザーホース 4-4
フューエルコック.....4-5
チョークレバー 4-5
キックスターター.....4-6
シート.....4-6
リヤクッション 4-7
サイドスタンド 4-7
スターティングサーキット
カットオフシステム.....4-7

日常点検.....5-1
日常点検の実施 5-1

運転操作.....6-1
ならし運転.....6-1
エンジン始動
（エンジンが冷えているとき）.....6-1
エンジン始動
（エンジンが暖まっているとき）.....6-2
ギヤチェンジのしかた.....6-2
ブレーキ 6-3
駐車.....6-4

点検整備.....7-1
定期点検整備 7-1
サービスツール.....7-1
定期点検項目（排ガス関連）.....7-2
定期点検整備項目（一般）と給油.....7-3
カバーの取り外し、取り付け.....7-5
スパークプラグの点検.....7-6
エンジンオイル.....7-7
エアクリーナーエレメントの清掃.....7-9
スパークアレスターの清掃.....7-11
キャブレターの調整 7-11
エンジンアイドリング回転数の
調整.....7-12
スロットルグリップの遊びの調整....7-12
バルブクリアランス 7-13
タイヤ.....7-13
スポークホイール.....7-14
アクセサリーと交換部品 7-14
クラッチの遊びの調整.....7-15
ブレーキレバーの遊びの調整.....7-15
ブレーキペダルの遊びの調整.....7-16
シフトペダルの点検 7-17
フロントおよび
リヤブレーキシューの点検 7-17
ドライブチェーン 7-18
ドライブチェーンの給油 7-19
ケーブルの点検と注油 7-20
スロットルグリップおよび
ケーブルの点検と注油 7-20
ブレーキレバーの点検と注油 7-20
ブレーキペダルの点検と注油 7-21
サイドスタンドの点検と注油 7-21
スイングアームピボットの注油.....7-21
車体各部の給油脂状態の点検 7-22
フロントフォークの点検 7-22
ステアリングの点検.....7-23
ホイールベアリングの点検.....7-23
バッテリー 7-23
ヒューズの交換.....7-24
車体の支持.....7-25
フロントホイール 7-26
リヤホイール 7-27
こんなときは 7-29
トラブルシューティングチャート....7-30

お車の手入れ.....8-1
お車の手入れ 8-1
保管のしかた 8-2
アフターケア用品について.....8-3

製品仕様 9-1

ユーザー情報.....10-1
ID 番号 10-1

もくじ

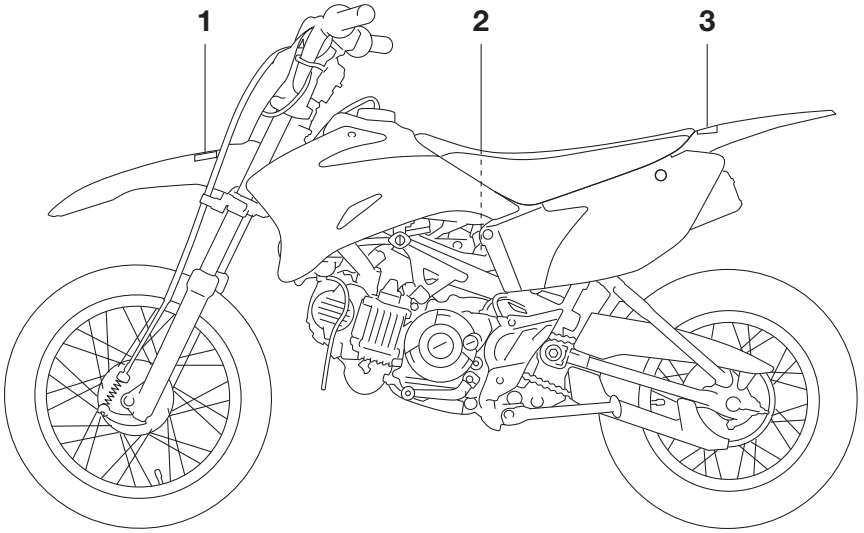
二輪車を廃棄する場合は？.....10-2
サービスマニュアル（別売）の
紹介.....10-3

索引 11-1

重要項目ラベルの貼り付け位置

JAU10386

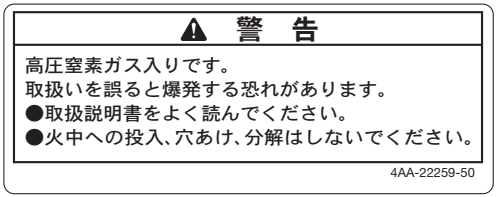
車両を運転する前に以下に示す重要ラベルをお読みください。



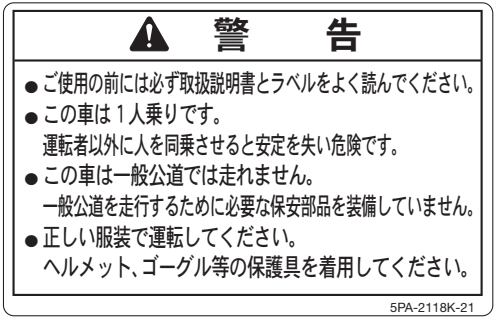
重要項目ラベルの貼り付け位置

1

2



3



JAU4121C

使用者の責任

車両の使用者として、安全で適切な操作を行う責任があります。
バイクは二輪の乗り物です。安全に利用、運転するためには、適切な運転技術と運転知識を備えている必要があります。この車を運転するには、次の条件を満たしていなければなりません。
運転者は：

- 車の操作に関するあらゆる局面について、あらゆる情報から学ぶこと。
- この取扱説明書の警告や点検整備の要件を遵守すること。
- 安全で正しいライディングテクニックのトレーニングを受けること。
- 取扱説明書に示される時期、あるいは車の状態に応じて必要なときに、充分な整備技術のある整備士の整備を受けること。

安全運転

走行前には必ず点検を行い、車両が安全に運転できる状態にあるかを確認してください。点検整備を怠ると、事故や車両の損傷につながる可能性が高くなります。走行前点検については、5-1 ページを参照してください。

- この車両はオフロード専用です。一般の道路、高速道路を走行すると道路交通法および道路運送車両法の違反となります。また、私道、神社の境内、公園、農道、堤防上など、いわゆる道路としての形態を整えていないところでも人や車が自由に出入りできるところは、一般の道路とみなされます。
- この車両は一人乗り専用です。運転者以外の人を乗せることはできません。
- バイク事故の主な原因は、他の車両のドライバーが走行中のバイクを見落としたり、発見が遅れることによります。多くの事故が、他の車両のドライバーがバイクに気づかなかったことで起きています。こうした見落とし事故を減らすため、周りから認知されやすい目立つ服装を心がけてください。

  具体的には：
  - 明るい色の服を着用してください。
  - 他の運転者から見える位置を走行してください。運転者の死角を走行しないでください。
- 経験不足のライダーが多くの事故に巻き込まれています。
  - ライダーはバイクに乗る技量が充分な人でなければなりません。またバイクに乗る技量が充分な人のみに貸すようにしてください。
  - ご自身の技量と限界を熟知してください。自分の限界を超えないことが事故防止には大切です。
  - バイク自体とすべての運転操作に慣れるまで、運転操作の練習をすることをおすすめします。
- 多くの事故はライダーのミスによって起きます。典型的な例は、スピードの出し過ぎやバンク角不足によってコーナーを曲がりきれなくなることです。速すぎる速度で走行しないでください。
- 慣れない場所では注意して運転してください。隠れた障害物に出くわし、事故につながるおそれがあります。
- ライダーの姿勢は、正しい運転操作の上で重要です。両手でハンドルを握って、両足をフットレストに置き、車両をコントロールしてください。
- 酒気を帯びているとき、また薬を飲んだときは運転しないでください。
- エンジンを始動する前に、必ずギヤをニュートラルにしてください。

身体を保護する服装

バイクの事故による死亡原因のトップは頭部への傷害です。頭部への傷害を防いだり軽減させるために、必ずヘルメットを着用してください。

- ヘルメットは PSC または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。
- ヘルメットのシールドまたはゴーグルを着用してください。目を保護しないと、風圧の影響で視力が落ち、危険物の発見が遅れるおそれがあります。
- すり傷、切り傷を防ぐため、ジャケット、ブーツ、ズボン、グローブなどを着用してください。

- だぶついた服は着用しないでください。レバー、フットレスト、ホイールなどにからまり、傷害や事故につながるおそれがあります。
- 防護服を必ず着用し、つま先、かかと、脚部を露出させないでください。運転中や運転直後は、エンジンや排気装置が非常に高温になるため、ヤケドするおそれがあります。

一酸化炭素中毒の予防

すべての排気ガスは、有毒な一酸化炭素を含んでいます。一酸化炭素を吸い込むと、頭痛、めまい、眠気、吐き気、意識障害を起こし、最悪の場合、死亡するおそれがあります。
一酸化炭素は無味無臭で無色のガスです。このため、排気ガスが見えない状態や臭いがしない状態でも無意識のうちに一酸化炭素を吸ってしまうおそれがあります。一酸化炭素をいったん吸い込むと、すぐに致死量に達して短時間のうちに意識不明となり死亡するおそれがあります。また、密閉された場所や換気が不充分な場所では、数時間や数日にわたって致死量レベルの一酸化炭素が残ってしまうおそれがあります。万一、中毒症状が現れた場合は、すぐに換気のよいところに移動し、医師の手当てを受けてください。

- 屋内でエンジンをかけないでください。換気扇を回したり窓やドアを開けて換気しても、短時間のうちに一酸化炭素が充満するおそれがあり危険です。
- 倉庫や車庫などの、換気が不充分な場所や閉鎖的な場所でエンジンをかけないでください。
- 屋外であっても、排気ガスが窓やドアなどの開口部から建物の中に吸い込まれる可能性がある場所では、エンジンをかけないでください。

積載

アクセサリーの装着によって車両の重量配分が変化した場合、操縦安定性やハンドリングに重大な影響を及ぼします。アクセサリーを装着するときは、充分に注意してください。また、アクセサリーを取り付けた車両を運転するときは、充分に注意してください。以下は車両にアクセサリーを装着する際に守るべき、一般的なガイドラインです。

過積載車両の運転は事故を引き起こすおそれがあります。

- 体重が 60.0 kg を超えるライダーは乗車しないでください。
- アクセサリーの重量はできるだけ、軽いものにしてください。いちばん重いものを車両の中心近くに積載し、なるべく車両の重量を左右均等に配分させ、偏ったり、不安定な状態はさけてください。
- 重量が移動すると、急に不安定になるおそれがあります。アクセサリーは、運転前に車両に確実に取り付けるようにしてください。アクセサリーの取り付け状態をこまめに点検してください。
  - タイヤの状態と空気圧を点検し、サスペンションの調整が可能なモデルについては、負荷に合わせてサスペンションを調整してください。
  - ハンドル、フロントフォーク、フロントフェンダーには大きなアクセサリーや重量のあるアクセサリーを取り付けないでください。

ヤマハ純正アクセサリー

アクセサリーを装備する場合は、慎重に製品を選んでください。ヤマハ純正アクセサリーは、ヤマハによって設計、テスト、および車両への使用が認められたアクセサリーです。ヤマハと無関係な多くのメーカーで、ヤマハ車用のパーツやアクセサリーが製造されていたり、その他の改造品が提供されています。ヤマハは、アフターマーケットで販売されているこうした製品をテストすることができません。したがって、ヤマハ製以外のアクセサリーの使用やヤマハで特に推奨していない改造については、ヤマハの販売店で販売されていたり取り付けが行われた場合でも、保証および推奨できません。

アフターマーケット製品、アクセサリー、改造

デザインや品質面でヤマハ純正アクセサリーと類似しているアフターマーケット製品でも、一部のアフターマーケット製品や改造は、安全上、問題となる場合があります。アフターマーケット製品の取り付けや、車両の設計特性や操作性を変えてしまうようなその他の改造を行うと、運転者や周囲の人が重傷や死亡に至る危険性を高める場合があります。車両の加工や改造に関連したけがや損害については、使用者の自己責任となります。

アクセサリーを取り付ける場合は、前述の「積載」の注意と合わせて次のことに注意してください。

- 車の性能を損なうアクセサリーを取り付けないでください。アクセサリーを装備する場合は、アクセサリーの取り付けによって、地上高やコーナリングクリアランスが減らないか、サスペンションの動き、ステアリングの取り回し、制御操作が妨げられないかを、事前に念入りに点検してください。
  - ハンドルやフロントフォークにアクセサリーを取り付けると、重量配分の変化によって安全性が損なわれる場合があります。ハンドルやフロントフォークにアクセサリーを取り付ける場合は、できるだけ軽量のものを最小限取り付けるようにしてください。
  - 大型でかさばるアクセサリーは、車の安定性に大きな影響を与える場合があります。風を受けて車が浮き上がりそうになったり、横風にバランスを崩される可能性があります。
  - アクセサリーによっては、運転者が通常の乗車位置に座れなくなる場合があります。乗車位置が不適切だと体の動きが制限され、車両制御に影響を与えるおそれがあるため、こうしたアクセサリーの装備はおすすめしません。
- 電装アクセサリーの取り付けには注意が必要です。電装アクセサリーが電気系統の容量を超えると、電気系統が故障し、照明装置などの機能低下やエンジン出力低下の原因となり危険です。

アフターマーケット製のタイヤとリム

車両に装着されているタイヤとリムは、車両の性能に合わせて、最適な操縦性、制動性、乗り心地が得られるように設計されています。指定外のタイヤ、リム、サイズを組み合わせての装着は、不都合が生じる場合があります。タイヤの仕様と交換について、7-13 ページを参照してください。

運搬

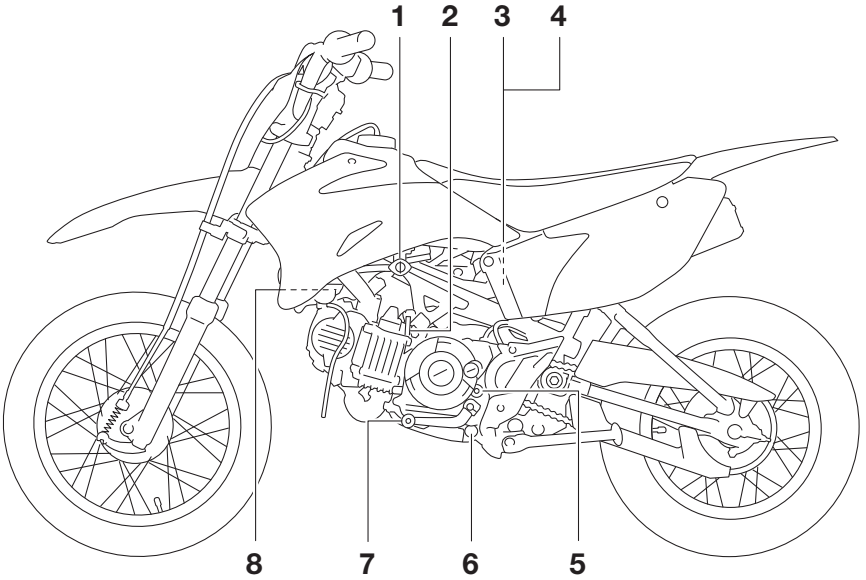
車を運搬する際は、下記の内容を必ず守ってください。

- 車から、運搬中落下の可能性がある部品を取り外してください。
- フューエルコック装備車の場合、フューエルコックが OFF になっているか、また燃料漏れしていないかを確認してください。
- トレーラーの上またはトラックの荷台で、車のフロントホイールをまっすぐにし、フロントホイールをレールなどでしっかりと固定してください。
- マニュアルミッション車の場合、ギヤを入れてください。
- しっかりとした部分、例えばフレームまたはフロントフォークのアンダーブラケットなどを、固定用ベルトまたは適当なひもを使用して固定してください。（ラバーマウントのハンドルまたは方向指示灯などの壊れやすい部分を固定しないでください。）なお、運搬中に塗装面をこすらないように、慎重にひもを掛ける場所を選んでください。
- 運搬中に車がおおきくバウンドしないように、固定用ベルトなどでリヤサスペンションをある程度まで圧縮させてください。

各部の名称

JAU10411

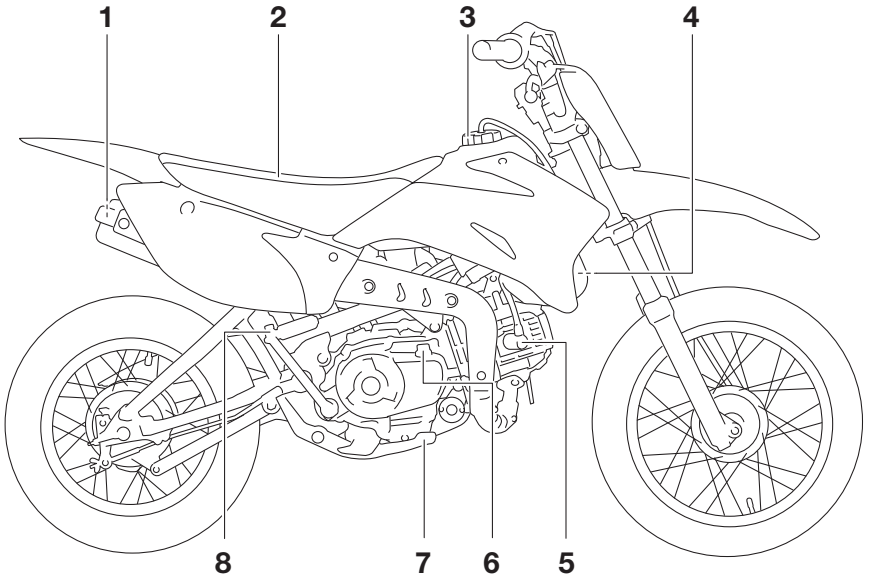
左側面



1. フューエルコック（P4-5）
2. チョークレバー（P4-5）
3. ヒューズ（P7-24）
4. バッテリー（P7-23）
5. クラッチアジャスター (P 7-15)
6. ドレンボルト（P7-7）
7. シフトペダル（P6-2）
8. スロットルストップスクリュー（P7-12）

JAU10421

右側面

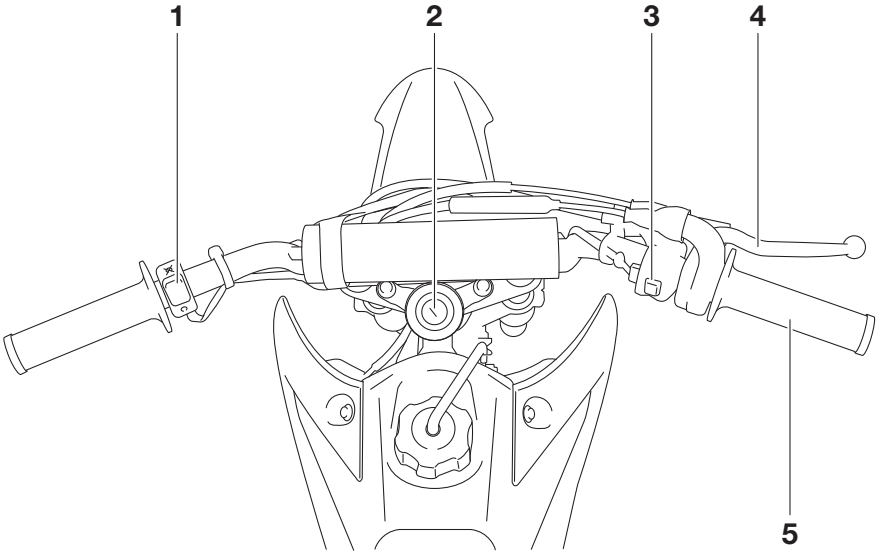


1. スパークアレスター（P7-11）
2. シート (P4-6)
3. フューエルタンクキャップ（P4-3）
4. エアクリーナーエレメント（P 7-9）
5. スパークプラグキャップ (P7-6)
6. オイル注入口（P7-7）
7. ブレーキペダル（P4-3）
8. キックスターター（P4-6）

各部の名称

JAU10431

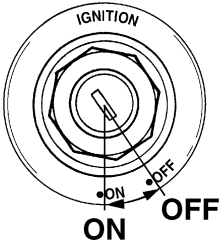
運転装置と計器類



1. エンジンストップスイッチ（P 4-1）
2. メインスイッチ（P4-1）
3. スタータースイッチ（P 4-1）
4. ブレーキレバー（P4-2）
5. スロットルグリップ（P7-12）

JAU40341

メインスイッチ



メインスイッチはエンジンの始動と停止、電源の「入 / 切」を行います。メインスイッチには以下のポジションがあります。

JAU10631

ON

全ての電気回路に電源が供給され、エンジンを始動させることができます。キーを抜くことはできません。

JAU46011

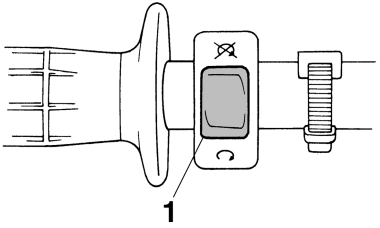
OFF

全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

JAU1234T

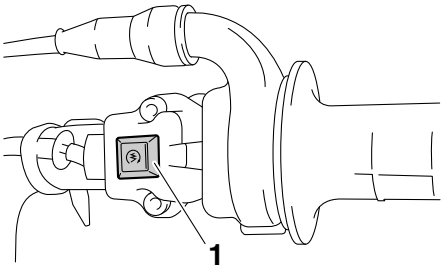
ハンドルスイッチ

＜左＞



1. エンジンストップスイッチ “○/⊗”

＜右＞



1. スタータースイッチ “ⓢ”

JAU12664

エンジンストップスイッチ “○/⊗”

非常時に、エンジンをすぐに停止させるスイッチです。通常は○にしておきます。

JWA12101

⚠ 警 告

非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

JCA12362

注 意

- **非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、必ずメインスイッチを OFF にしてください。ON のままですと、バッテリーあがりの原因となります。**
- **走行中に、エンジンストップスイッチを○→⊗→○にしないでください。エンジン不調の原因となります。**

要 点

⊗にすると、エンジンは始動できません。

JAU12713

スタータースイッチ “ⓢ”

このスイッチを押すと、スターターモーターが回転し、エンジンが始動します。

JCA11882

注 意

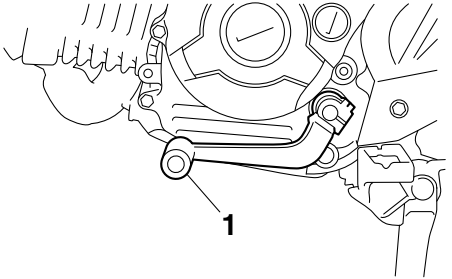
- **スターターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。**

4

● **エンジンを始動させる前に、6-1 ページの始動手順を参照してください。**

JAU39852

シフトペダル

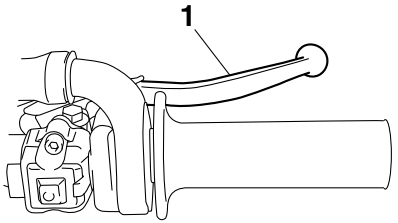


1. シフトペダル

この車には常時かみ合式、ボトムニュートラルの 4 段変速機が装備されています。シフトペダルは車両の左側にあります。

JAU12892

ブレーキレバー

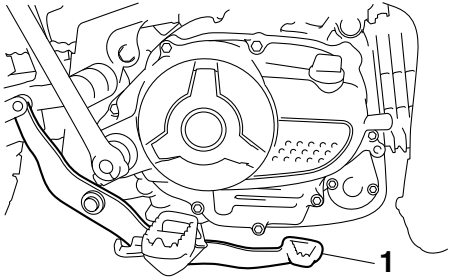


1. ブレーキレバー

ブレーキレバーは、ハンドルの右側に取り付けられています。フロントブレーキをかけるには、このレバーをスロットルグリップに向けて握ります。

JAU12944

ブレーキペダル



1. ブレーキペダル

ブレーキペダルは、車体の右側にあります。リヤブレーキをかけるには、ブレーキペダルを踏み込みます。

JAU13183

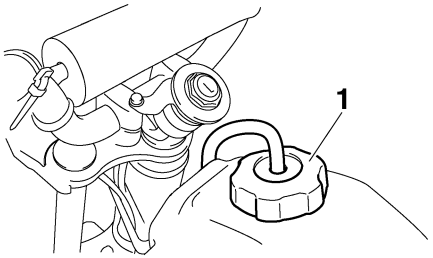
フューエルタンクキャップ

JWA12172

⚠ 警 告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- **給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。**
- **フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があり、ヤケドするおそれがあります。**
- **給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。**
- **給油は、必ず屋外で行ってください。**
- **セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。**
- **給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。**
- **給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。**



1. フューエルタンクキャップ

フューエルタンクキャップを取り外すときは、キャップを反時計方向に回して取り外します。
フューエルタンクキャップを取り付けるときは、キャップを給油口に挿入し、時計方向に回して取り付けます。

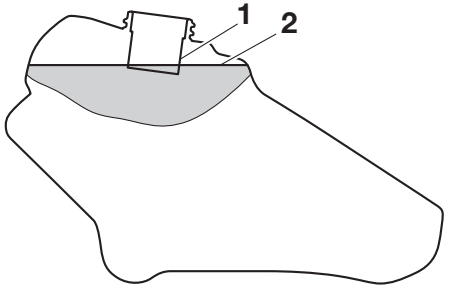
JWA11092

⚠ 警 告

運転する前に、フューエルタンクキャップが正しく締まっているか確認してください。

JAU13213

燃料



1. フィラーチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクに充分な燃料が入っているか、確認してください。図のようにフィラーチューブの下部まで給油してください。

JWA10882

⚠警 告

- **給油限度を超えてガソリンを入れると、ガソリンが温まって膨張したときにあふれるおそれがあります。**
- **高温のエンジンにガソリンをこぼさないように注意してください。**

JCA10072

注 意

こぼれたガソリンは、きれいな乾いた柔らかい布で直ちにふき取ってください。放置しておくと、塗装面やプラスチック部分を損傷するおそれがあります。

JAU28313

指定燃料

指定燃料：
無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：
約 3.8 L

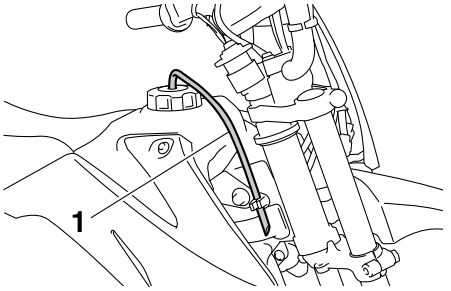
JCA12512

注 意

- **必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。**
- **こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。**
- **タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。**

JAU13414

フューエルタンクブリーザーホース



1. フューエルタンクブリーザーホース

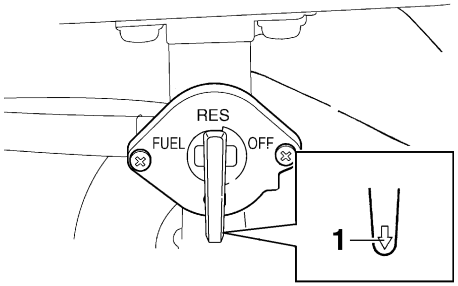
乗車の前に：

- フューエルタンクブリーザーホースの接続を点検します。
- フューエルタンクブリーザーホースを点検します。ひび、損傷がある場合はヤマハ販売店へ交換を依頼してください。
- フューエルタンクブリーザーホースがつまっていないか確認し、必要に応じて清掃します。

JAU13563

フューエルコック

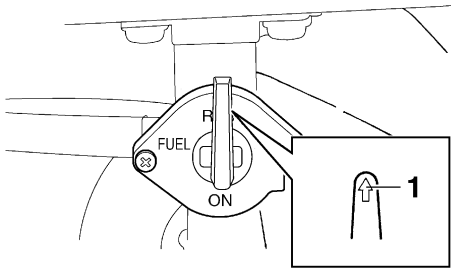
ON



1. “ON”

始動および走行時のレバー位置です。

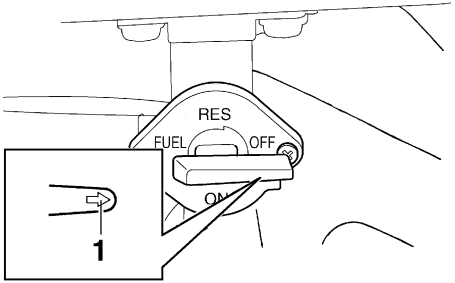
RES



1. “RES”

予備燃料（予備容量約 0.5 L）を使用するときのレバー位置です。
ON で走行中にガソリンがなくなったら、レバーをこの位置にします。予備燃料が使用できますが早めに給油してください。給油を終えたらレバーを ON に戻してください。

OFF



1. “OFF”

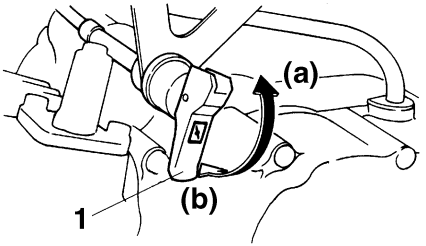
駐車時のレバー位置です。
ガソリンは流れません。

要　点

長期間使用しないときは、レバーを必ず OFF の位置にしてください。

JAU13591

チョークレバー “⎇”

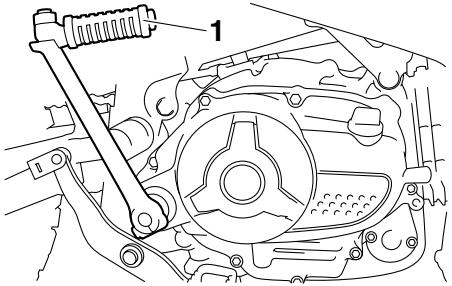


1. チョークレバー “⎇”

エンジンが冷えているときは、チョークを使用するとエンジンの始動が容易になります。
レバーを (a) 方向に移動させ、チョークをオンにします。
レバーを (b) 方向に移動させ、チョークをオフにします。

JAU37652

キックスターター



1. キックスターターレバー

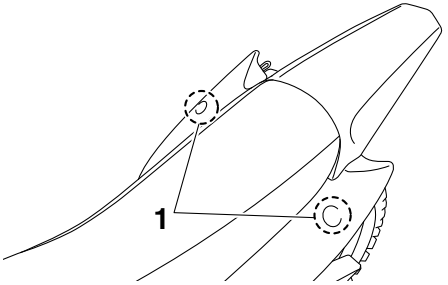
スタータースイッチを押しても、エンジンが始動しない場合、キックスターターで始動してください。キックスターターでエンジンを始動するには、キックスターターレバーを出し、足で軽く踏んでギアをかみ合わせてから、力強く下にキックします。

JAU46283

シート

シートの取り外しかた

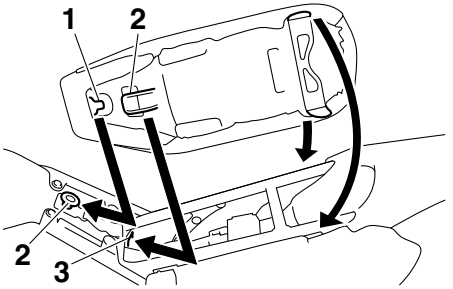
ボルトを外し、シートを後方に引いてから持ち上げて取り外します。



1. ボルト

シートの取り付けかた

1. 図のようにシート前部の溝をフューエルタンク上の突起に合わせ、シートの突起をホルダーに差し込みます。



1. 溝
2. 突起
3. シートホルダー

2. シートを元の位置に取り付け、ボルトを締め付けます。

要　点

乗車する前に、シートが正しく取り付けられていることを必ず確認します。

JAU46023

リヤクッション

JWA10222

⚠警 告

リヤクッションユニットには高圧窒素ガスが封入されています。リヤクッションユニットを取り扱う場合は、必ず下記のことを厳守してください。

- **シリンダー本体を加工または分解しないでください。**
- **リヤクッションユニットを火気の中に投げ込まないでください。高温にさらすとガスが膨張し、爆発するおそれがあります。**
- **シリンダーを変形させたりダメージを与えないでください。これを行うと、減衰力が低下するおそれがあります。**
- **損傷または変形したリヤクッションユニットを、ご自分で処分しないでください。リヤクッションユニットの処分が必要なときは、ヤマハ販売店にご相談ください。**
- **点検整備については、必ずヤマハ販売店にて実施してください。**

JAU37491

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

JWA14251

⚠警 告

- **サイドスタンドを出したまま走行すると、スタンドが地面に接触して運転操作に支障をきたすことがあり、たいへん危険です。**
- **走行中にサイドスタンドを操作すると、思わぬ事故の原因となります。走行中はサイドスタンドを操作しないでください。**

要 点

サイドスタンドがスムーズに作動しないときは、取付部に注油してください。

JAU41612

スターティングサーキットカットオフシステム

スターティングサーキットカットオフシステムはギヤが入っている状態でのエンジン始動を防止します。

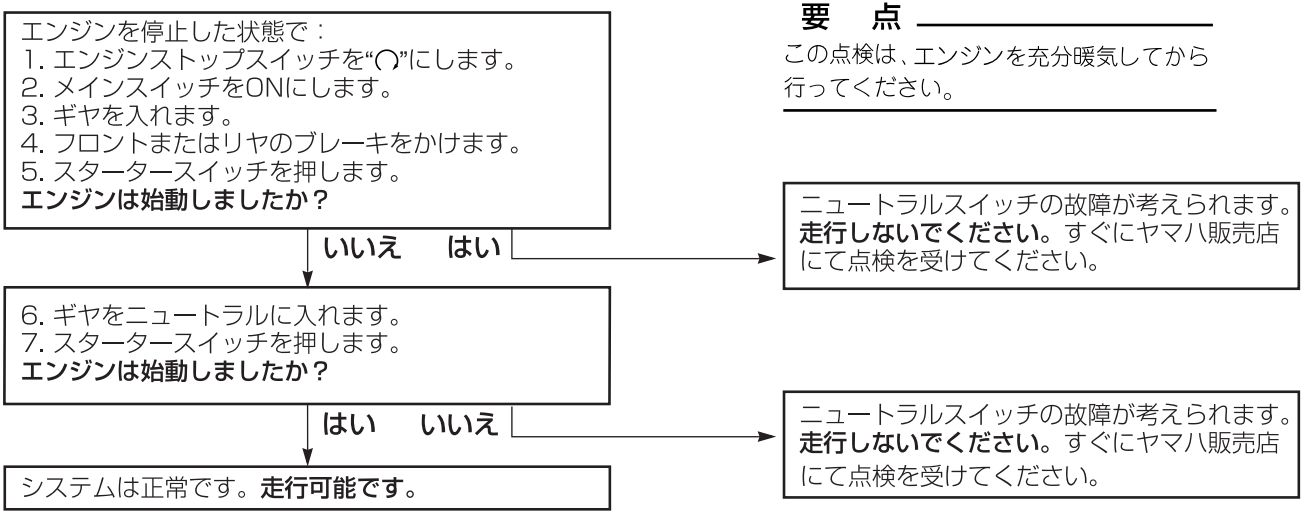
スターティングサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って定期的に点検してください。

JWA10251

⚠警 告

点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。

4



要　点

この点検は、エンジンを充分暖気してから行ってください。

JAU42185

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、走行前点検リストに基づいた日常点検を必ず実施してください。

JWA12032

⚠警 告

● 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
● 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）

走行前点検リスト

項目	点検、整備内容	参照ページ
燃料	● フューエルタンクの残量を点検します。 ● 必要に応じて補給します。 ● 燃料の漏れがないか点検します。 ● フューエルタンクブリーザーホースにつまり、ひび、損傷がないか、また正しく接続されているか点検します。	4-4, 4-4
エンジンオイル	● オイル量を点検します。 ● 必要に応じて指定のオイルを規定量まで補充します。 ● オイル漏れがないか点検します。	7-7
フロントブレーキ	● 作動を点検します。 ● 必要に応じてブレーキケーブルに注油します。 ● ブレーキレバーの遊びの量を点検します。 ● 必要に応じて調整します。	7-15, 7-17
リヤブレーキ	● 作動を点検します。 ● ブレーキペダルの遊びの量を点検します。 ● 必要に応じて調整します。	7-16, 7-17

日常点検

項目	点検、整備内容	参照ページ
スロットルグリップ	● 作動がスムーズであるか点検します。 ● スロットルグリップの遊びを点検します。 ● 必要に応じて、ヤマハ販売店へスロットルグリップの遊びの調整、ケーブルおよびグリップハウジングの注油を依頼します。	7-12, 7-20
コントロールケーブル	● 作動がスムーズであるか点検します。 ● 必要に応じて注油します。	7-20
ドライブチェーン	● チェーンのたわみ量を点検します。 ● 必要に応じて調整します。 ● チェーンの状態を点検します。 ● ヤマルーブ 180 チェーンオイルを給油します。	7-18, 7-19
ホイールとタイヤ	● ホイールに損傷がないか点検します。 ● タイヤの状態と溝の深さを点検します。 ● 空気圧を点検します。 ● 必要に応じて調整、交換します。	7-13, 7-14
シフトペダル	● 作動が滑らかであるか点検します。 ● 必要に応じて調整します。	7-17
ブレーキペダル	● 作動が滑らかであるか点検します。 ● 必要に応じてペダルの取り付け部分に注油します。	7-21
ブレーキレバー	● 作動がスムーズであるか点検します。 ● 必要に応じてレバーの取り付け部に注油します。	7-20
サイドスタンド	● 作動がスムーズであるか点検します。 ● 必要に応じて取り付け部に注油します。	7-21
車体の締付具合	● ナット、ボルト、スクリューが規定トルクで締まっているか点検します。 ● 必要に応じて締め付けます。	—
エンジンストップスイッチ	● 作動を点検します。	4-1

JAU98890

JWA14621

⚠警 告

- **この車両はオフロード専用です。乗車前に各部の取り扱いと操作に慣れてください。操作でご不明な場合はヤマハ販売店にご相談ください。**
- **風通しの悪い場所でエンジンを始動したり、かけたままにしないでください。排気ガスには毒性があり、短時間のうちに意識を失ったり、死を招くおそれがあります。常に風通しのよい場所でエンジンを始動してください。**
- **発進の前に、サイドスタンドを上げてください。サイドスタンドを正しく上げないと地面に接地し、ライダーを混乱させたり、操縦安定性を損なわせるおそれがあります。**

JAU39921

ならし運転

最初の 5 時間のならし運転は、エンジンの寿命にとって重要です。同じようにこの期間、ライダーがバイクになれることも重要です。以下の説明をよくお読みください。

エンジンは新品ですので、最初の 5 時間は過度な負荷をかけないでください。エンジン内の各部品が互いに摩擦、摺動することで正しい作動クリアランスとなります。この期間中、エンジンのオーバーヒートになりかねない長時間の全開運転は避けてください。しかし、短時間（最大 2 ～ 3 秒）であれば、スロットルを全開にしてもエンジンに悪影響はありません。スロットルを全開にする操作は、休み休み行ってください。また、スロットル全開操作により熱を持ったエンジンを冷やすために、低いエンジン回転数で走行しながら行ってください。

ならし運転後、部品がゆるんでいないか、オイル洩れや問題がないかを念入りに点検してください。特にケーブルやドライブチェーンのゆるみ、スポークのゆるみの点検、調整をしてください。さらに、各部のゆるみを点検し、必要であれば締め付けます。

JCA10271

注 意

ならし運転の間にエンジントラブルが発生したときは、すぐにヤマハ販売店にて車両を点検してください。

JAU44815

エンジン始動（エンジンが冷えているとき）

1. フューエルコックを ON にします。
2. メインスイッチを ON にし、エンジンストップスイッチが “⟮⟯” にセットされていることを確認します。
3. ギヤをニュートラルに入れます。

JWA14411

⚠警 告

- **エンジンを始動する前に、ギヤをニュートラルにしてください。**
- **サイドスタンドを下げたまま走行しないでください。**

4. チョークをオンにし、スロットルを完全に閉じます。（4-5 ページ参照）
5. スタートスイッチを押すか、キックスターターレバーを下にキックしてエンジンを始動します。
6. エンジンが暖まったら、チョークをオフにします。

要 点

チョークをオフにした状態でエンジンがスロットルにすぐに反応すれば、エンジンは暖まっています。

JCA15992

注 意

- **エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。**

- **長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。**
- **通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（アイドルアジャスターの誤った調整や、スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。**

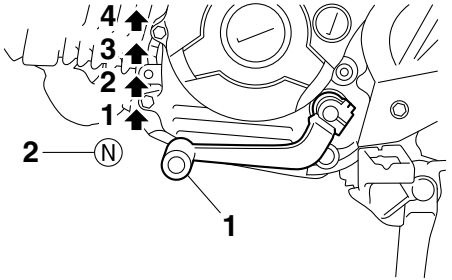
JAU16641

エンジン始動（エンジンが暖まっているとき）

エンジンが暖まっているときは、チョークを必要としないことを除いて、エンジンが冷えている時のエンジン始動と同じ手順で行います。

JAU39904

ギヤチェンジのしかた



1. シフトペダル
2. ニュートラル

この車は自動遠心式クラッチの 4 段変速です。ギヤチェンジを行って発進、加速や坂道を登るときなどに必要なエンジンのパワーを調整します。
ギヤのポジションは図に示すようになっています。

要　点

ニュートラル（**N**）にシフトするには、シフトペダルを一番下に行くまで繰り返し踏み込みます。

JCA15443

注 意

- **シフトペダルは、踏みごたえがあるまで確実に操作してください。**

- **ギヤがニュートラル位置であっても、エンジンを停止したまま長い間惰性走行を行ったり、長い距離をけん引したりしないでください。エンジンが停止しているとトランスミッションの潤滑が不十分になり、トランスミッションが損傷するおそれがあります。**
- **ギヤを変えるときは、エンジン、トランスミッション、ドライブチェーンの損傷を防ぐため、スロットルグリップを戻してください。エンジン、トランスミッション、ドライブチェーンは、スロットルグリップを開けたままでのシフト操作に耐えられるようには設計されていません。**

JAU39912

発進と加速のしかた

1. スロットルを閉じます。
2. ギヤを 1 速に入れ、シフトペダルを放します。

JCA15462

注 意

ギヤチェンジはスロットルグリップを戻してから行ってください。無理なギヤチェンジは故障の原因になります。

3. 少しづつスロットルを開けます。
4. 車が変速に適した速度に達したら、スロットルを閉じます。
5. ギヤを 2 速に入れ、シフトペダルを放します。
6. 少しづつスロットルを開けます。
7. 次のギヤに変速する時は同じ手順で行ってください。

JAU16711

減速のしかた

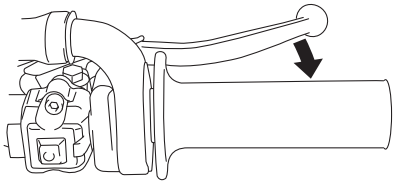
1. スロットルを完全に閉じます。フロントブレーキとリヤブレーキを同時に徐々にかけます。
2. 順にシフトダウンして行き、車両が停止したらギヤをニュートラルに入れます。

JAU85360

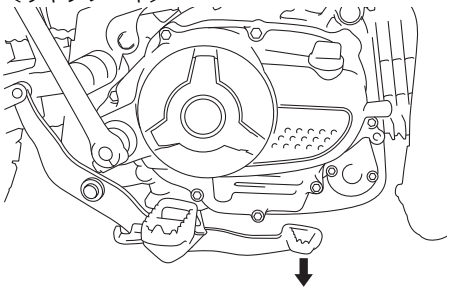
ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にかけます。

<フロントブレーキ>



<リヤブレーキ>



JWA11573

⚠警 告

- **急なブレーキ操作は避けてください（特にどちらか一方に傾いているとき）。横すべりや転倒の原因となります。**
- **踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。**
- **濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。**
- **下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。**
- **連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。**

JAU17173

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜き、フューエルコックをオフにします。

JWA10312

⚠警 告

- **エンジンとエキゾーストシステムは非常に高温になることがあるので、歩行者や子供がそれらに触れないような場所に駐車してください。**
- **斜面や軟弱な地面には駐車しないでください。車が転倒するおそれがあります。**
- **草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。**

JAU17294

安全を保つことは所有者の義務のひとつです。定期的な点検、調整や注油によって、車両の安全性と本来の性能を保つことができます。点検、調整や注油の重要なポイントについて以下の各ページで説明します。

JWA10322

⚠警 告

点検整備を怠ったり正しく整備を行わないと、乗車中や整備中、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。整備作業について自信がない場合は、ヤマハ販売店に作業を依頼してください。

JWA15461

⚠警 告

走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

JAU46071

定期点検整備

車両の正しい定期点検整備は、長くバイクを楽しんでいただく上で重要です。特に重要なことは、排気ガスに関連した部分の保守整備です。これらの部分は、よりクリーンな排気を保つ働きをするだけでなく、エンジンが充分に性能を発揮するためにも重要です。以下の定期点検整備表では、排気ガスに関連した点検整備項目は別にグループ化されています。整備には、各種のデータ、知識、器具が必要です。ヤマハ販売店は、これらの整備を行なう上での訓練を受けており、設備も備わっています。

JWA10341

⚠警 告

ヤマハが認可しない改造は、性能を低下させたり、排気ガスを悪化させたり、安全性を低下させたりするおそれがあります。変更を行う前にヤマハ販売店にご相談ください。

JAU17312

サービスツール

本書に書いてある整備情報と、サービスツールに含まれる工具は、所有者がトラブル防止のための整備と簡単な修理を実行する際に役立てることができます。しかし、整備作業を正しく行うためには、トルクレンチなど別の工具が必要になります。

要 点

整備に必要な工具や経験をお持ちでない場合は、ヤマハ販売店に作業を依頼してください。

JWA10341

⚠警 告

ヤマハが認可しない改造は、性能を低下させたり、排気ガスを悪化させたり、安全性を低下させたりするおそれがあります。変更を行う前にヤマハ販売店にご相談ください。

JAU39945

定期点検項目（排ガス関連）

要　点

- 7000 km または 18 か月目以降は、3000 km または 6 か月目の点検項目に戻って点検整備を繰り返してください。
- * 印の項目は、特殊工具、データ、技能を必要とするため、ヤマハ販売店に点検整備をご依頼ください。

No.		項目	点検整備内容	初回	オドメーター表示	
				1000 km（1 か月目または 30 時間）	3000 km（6 か月目または 90 時間）	5000 km（12 か月目または 150 時間）
1	*	燃料系統	• 燃料ホースに亀裂や損傷がないか点検します。 • 必要に応じて交換します。		√	√
2		スパークプラグ	• 状態を点検します。 • ギャップを調整し、清掃します。		√	√
3	*	バルブクリアランス	• エンジンが冷えているときに、バルブクリアランスの点検と調整を行います。			√
4		エアクリーナーエレメント	• きれいな灯油で洗浄します。 • 必要に応じ交換します。		√	√
5	*	クランクケースブリーザーシステム	• ベンチレーションホースに亀裂や損傷がないか点検し、堆積物を排出します。 • 必要に応じ交換します。	√	√	√
6	*	キャブレター	• アイドリング回転数を点検します。 • 必要に応じて調整します。	√	√	√
7		排気系統	• 漏れがないか点検します。 • 必要に応じて締め付けます。 • 必要に応じてガスケットを交換します。		√	√
8	*	スパークアレスター	• 清掃します。			√
9		エンジンオイル	• 交換します。(オイルを抜く前にエンジンを 2 ～ 3 分間、アイドリング運転してください。)	√	√	√

JAU3534E

定期点検整備項目（一般）と給油

要　点

- 7000 km または 18 か月目以降は、3000 km または 6 か月目の点検項目に戻って点検整備を繰り返してください。
- * 印の項目は、特殊工具、データ、技能を必要とするため、ヤマハ販売店に点検整備をご依頼ください。

No.		項目	点検整備内容	初回	オドメーター表示	
				1000 km（1 か月目または 30 時間）	3000 km（6 か月目または 90 時間）	5000 km（12 か月目または 150 時間）
1	*	クラッチ	• 作動を点検します。 • 必要に応じ調整します。	√	√	√
2	*	フロントブレーキ	• 作動を点検します。 • ブレーキレバーの遊びの量を調整し、必要ならブレーキシューを交換してください。	√	√	√
3	*	リヤブレーキ	• 作動を点検します。 • ブレーキペダルの遊びの量を調整し、必要ならブレーキシューを交換してください。	√	√	√
4	*	ホイール	• 振れを確認し損傷がないか点検します。 • 必要に応じてスポークを締め付けます。	√	√	√
5	*	タイヤ	• 溝の深さを確認し、損傷がないか点検します。 • 必要に応じて交換します。 • 空気圧を点検します。 • 必要に応じて修正します。		√	√
6	*	ホイールベアリング	• 作動が滑らかであるか点検します。 • 必要に応じて交換します。		√	√
7	*	スイングアーム取り付け部のベアリング	• ベアリングのがたを点検します。 • ヤマハモリブデングリースを注油します。		√	√
8		ドライブチェーン	• チェーンの張り、たわみと状態を点検します。 • 調整してヤマルーブ 180 チェーンオイルを給油します。	乗車毎		
9	*	ステアリングベアリング	• ベアリングに緩みがないか点検します。 • ヤマハグリース B を塗布します。	√		√

点検整備

No.		項目	点検整備内容	初回	オドメーター表示	
				1000 km（1 か月目または 30 時間）	3000 km（6 か月目または 90 時間）	5000 km（12 か月目または 150 時間）
10	*	車体の締め付け具合	• 車体各部の締め付け具合を確認します。 • 必要に応じて増し締めします。	√	√	√
11		ブレーキレバーピボットシャフト	• ヤマハグリース B を薄く塗布します。		√	√
12		ブレーキペダルピボットシャフト	• ヤマハグリース B を薄く塗布します。		√	√
13		サイドスタンドピボット	• 作動を点検します。 • ヤマハグリース B を薄く塗布します。	√		√
14	*	フロントフォーク	• 作動とオイル漏れがないかを点検します。 • 必要に応じて交換します。		√	√
15	*	リヤクッション	• 作動を確認しリヤクッションにオイル漏れがないか点検します。 • 必要に応じて交換します。			√
16	*	コントロールケーブル	• ヤマルーブ 180 ワイヤーグリースを注油します。	√	√	√
17	*	スロットルグリップ	• 作動を点検します。 • グリップの遊びを点検し、必要に応じて調整します。 • グリップハウジングとケーブルに注油します。	√	√	√

JAU40001

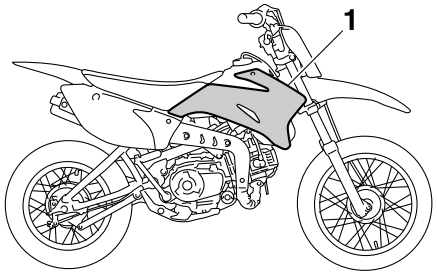
要　点

著しく湿気やほこりの多い地域で走行している場合は通常より多めにエアクリーナーエレメントを点検整備する必要があります。

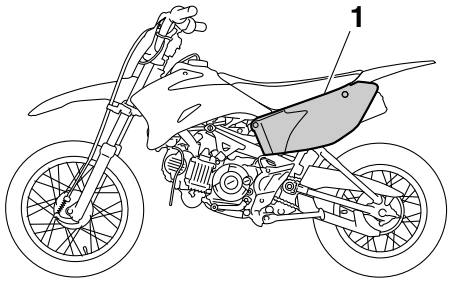
JAU18773

カバーの取り外し、取り付け

図のカバーは、点検整備などで取り外す必要があります。カバーを取り外すときや、取り付けるときは、この項目を参照してください。



1. カバー A



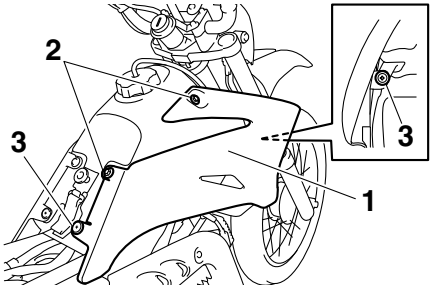
1. カバー B

JAU56170

カバー A

カバーの取り外しかた

1. シートを取り外します。(4-6 ページ参照)
2. ボルトとクイックファスナースクリューを取り外して、カバーを取り外します。



1. カバー A
2. ボルト
3. クイックファスナースクリュー

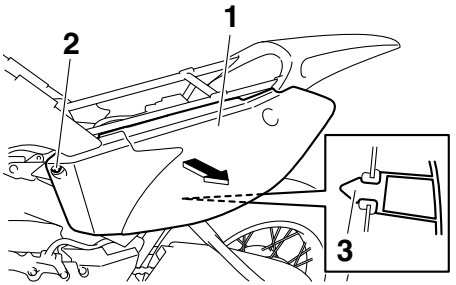
カバーの取り付けかた

1. カバーを元の位置に取り付けてボルトを締め付け、クイックファスナースクリューを取り付けます。
2. シートを取り付けます。

カバー B

カバーの取り外しかた

1. シートを取り外します。(4-6 ページ参照)
2. ボルトを取り外し、図のようにカバーを引き抜きます。



1. カバー B
2. ボルト
3. 突起

カバーの取り付けかた

1. カバーを元の位置に取り付け、ボルトを締め付けます。
2. シートを取り付けます。

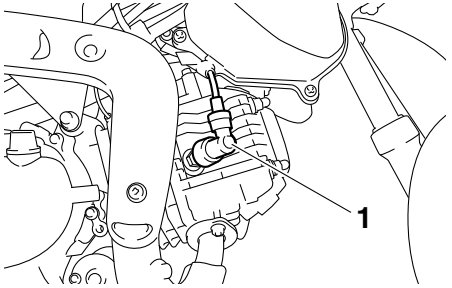
JAU19608

スパークプラグの点検

スパークプラグはエンジンの重要な部品のひとつですが、簡単に点検することができます。熱や堆積物のため、どんなスパークプラグでも徐々に腐食が進みますから、スパークプラグは必ず「定期点検項目（排ガス関連）」に従って取り外し、点検してください。また、スパークプラグの状態によって、エンジンの状態がわかることもあります。

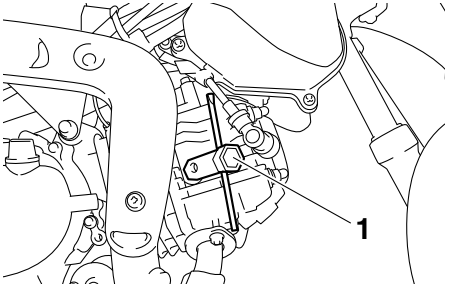
スパークプラグの取り外しかた

1. スパークプラグキャップを取り外します。



1. スパークプラグキャップ

2. 図のようにスパークプラグを取り外します。スパークプラグレンチはサービスツールの中にあります。



1. スパークプラグレンチ

スパークプラグの点検のしかた

1. スパークプラグの中心電極の周りのガイシが淡いキツネ色になっているかを点検します。（淡いキツネ色に焼けているのが理想です。）

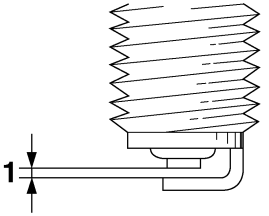
要　点

スパークプラグが明らかに違う色を示している場合は、エンジンが適正に運転されていない可能性があります。このようなときはご自分で判断を行わずにヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

2. スパークプラグを調べて電極の腐食や過度のカーボンやその他の堆積物がないかを確認し、必要に応じてスパークプラグを交換します。

指定スパークプラグ：
NGK/CR6HSA

3. シックネスゲージでスパークプラグのギャップを測定し、必要に応じて規定値に合うようにギャップを調整します。



1. プラグギャップ

スパークプラグギャップ：
0.6–0.7 mm

スパークプラグの取り付けかた

1. スパークプラグガスケットの表面と、その合わせ面を清掃し、スパークプラグのねじ山に汚れがあればふき取ります。
2. スパークプラグレンチを使ってスパークプラグを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
スパークプラグ：
13 N·m (1.3 kgf·m)

要　点

スパークプラグを取り付けるときにトルクレンチが利用できない場合、指で締め付けてから 4 分の 1 から 2 分の 1 回転させると、ほぼ正しい締め付けトルクになります。しかし、できるだけ早く規定の締め付けトルクで締め付けを行ってください。

3. スパークプラグキャップを取り付けます。

JAU39848

エンジンオイル

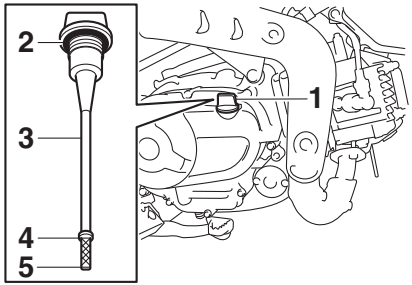
エンジンオイルは乗車の前に毎回、点検してください。また、エンジンオイルは「定期点検項目（排ガス関連）」に指定されている時期に交換する必要があります。

エンジンオイル量の点検

1. 車を平坦なところで垂直に立てます。オイル量を点検するときは、車体が垂直に立てられていることを確認してください。傾いていると正しく読み取れません。
2. エンジンを2～3分間アイドリング運転してから停止します。
3. 数分間待って、オイルが安定してからオイル注入口のキャップを外し、オイルレベルゲージをきれいに拭いてオイル注入口に（ねじ込まないで）差し込み、もう一度取り出してオイル量を点検します。

要　点

オイル量はフルレベルとレベルゲージ先端の間にあるようにしてください。

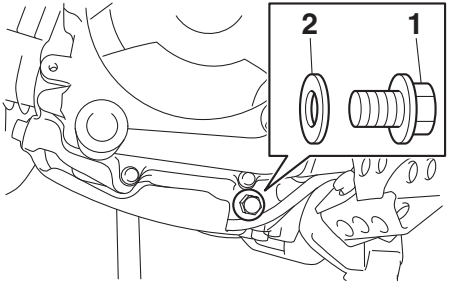


1. オイル注入口
2. O リング
3. オイルレベルゲージ
4. フルレベル
5. オイルレベルゲージの先端

4. もしもエンジンオイルがレベルゲージに付着しない場合は、推奨されたオイルを規定のレベルまで補充します。
5. O リングに損傷がないか点検し、損傷がある場合は交換してください。
6. オイルレベルゲージをオイル注入口に差し込み、キャップを締めます。

エンジンオイルの交換

1. エンジンを2～3分間アイドリング運転してから停止します。
2. 使用済みのオイルを回収するため、エンジンの下にオイルトレーを置きます。
3. オイル注入口のキャップ、ドレンボルトとガスケットを取り外し、クランクケースからオイルを抜き取ります。



1. ドレンボルト
2. ガスケット

4. 新しいガスケットとドレンボルトを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
エンジンオイルドレンボルト：
20 N·m (2.0 kgf·m)

5. 規定の量の推奨エンジンオイルを補充します。

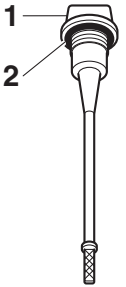
推奨エンジンオイル：
9-1 ページ参照
オイル容量：
0.80 L

JCA11621

注 意

- **クラッチの滑りを防ぐため（エンジンオイルにはクラッチの潤滑作用もあるため）、いかなる化学添加剤も混ぜないでください。ディーゼル車用の CD 級オイルや、指定よりも高いグレードのオイルは使わないでください。また、ENERGY CONSERVING II 以上のラベルのついたオイルは使わないでください。**
- **クランクケースに異物が入らないように注意してください。**

6. O リングに損傷がないか点検し、損傷がある場合は交換してください。



1. オイル注入口キャップ
2. O リング

7. オイル注入口のキャップを取り付けてしっかりと締めます。

8. エンジンを始動し、数分間アイドリングさせながら、オイル漏れがないかを点検します。もし、漏れていたらエンジンをただちに停止し、原因を調べてください。
9. エンジンを停止し、オイル量を点検します。必要に応じて調整してください。

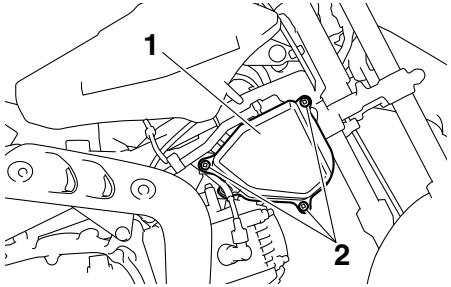
JAU41638

エアクリーナーエレメントの清掃

エアクリーナーエレメントは「定期点検項目(排ガス関連)」で指定する時期に点検整備を行ってください。ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、指定の時期より早めにエアクリーナーエレメントを清掃または必要に応じて交換してください。

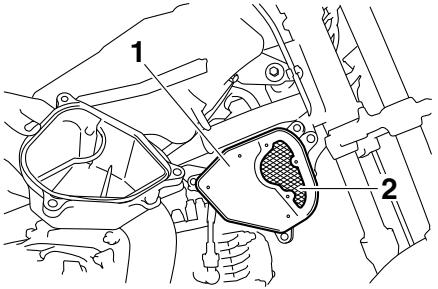
エアクリーナーエレメントの清掃

1. カバー A を取り外します。(7-5 ページ参照)
2. スクリューを取り外し、エアクリーナーケースカバーを取り外します。



1. エアクリーナーケースカバー
2. スクリュー

3. エアクリーナーエレメントとエアクリーナーメッシュを取り外します。



1. エアクリーナーエレメント
2. エアクリーナーメッシュ

4. エアクリーナーメッシュをきれいな灯油で洗浄して拭き取ります。
5. エアクリーナーエレメントをきれいな灯油で洗浄して軽くしぼります。

JWA10432

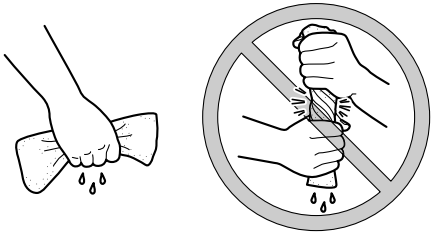
⚠ 警 告

部品洗浄専用の洗油をご使用ください。火災や爆発などの危険を避けるために、ガソリンや燃焼性のある溶剤は使用しないでください。

JCA10512

注 意

エアクリーナーエレメントが破損しないよう、力を入れず、曲げたり折ったりしないでください。



6. ヤマルーブフィルターオイルをエアクリーナーエレメントの表面全体に塗布してから、布切れなどで包み、しぼります。

要 点

エアクリーナーエレメントは湿った状態にしますが、たれる程にはしないでください。

指定オイル:
ヤマルーブフィルターオイル

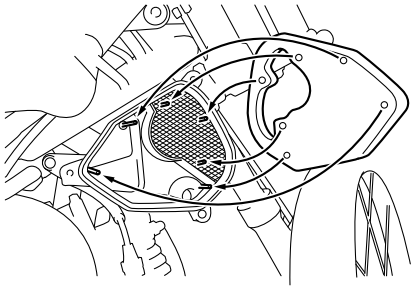
7. エアクリーナーメッシュとエアクリーナーエレメントをエアクリーナーケースに取り付けます。

JCA15573

注 意

メッシュとエアクリーナーエレメントがエアクリーナーケースに正しく装着されていることを確認してください。メッシュとエアクリーナーエレメントを取り付けないまま

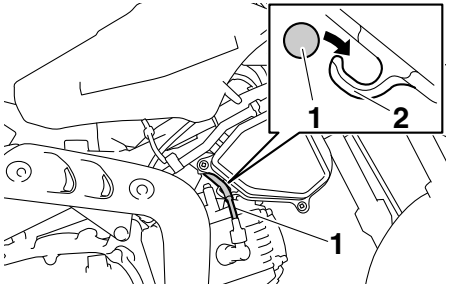
エンジンを始動しないでください。これを行うと、ピストンやシリンダーの摩耗が激しくなります。



8. エアクリーナーケースカバーを取り付け、スクリューを締め付けます。

要　点

図のように、スパークプラグのリード線がガイドに掛かっているか確認します。

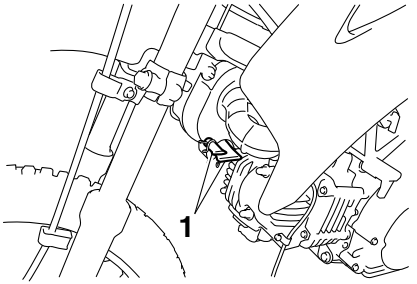


1. スパークプラグリード
2. ガイド

9. カバーを取り付けます。

エアクリーナーチェックホースの清掃

1. エアクリーナーケースの下方にあるホースを点検し、汚れや水がたまっていないか確認します。



1. エアクリーナーチェックホース

2. 汚れや水があった場合は、ホースを取り外して清掃し、元に戻します。

JAU40422

スパークアレスターの清掃

スパークアレスターは「定期点検項目（排ガス関連）」に示された時期に清掃を行ってください。

JWA10981

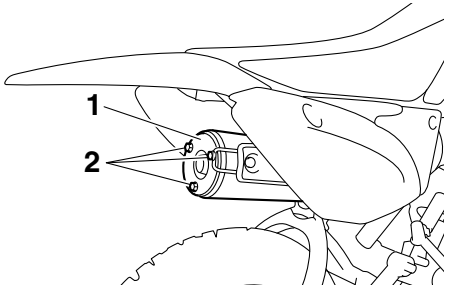
⚠警 告

- **排気系統の部品に触れる前に、排気システムを冷やしてください。**
- **排気系統を清掃するときは、エンジンを始動しないでください。**

要 点

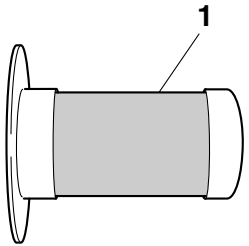
風通しが良く、可燃物がない場所でスパークアレスターの清掃を行ってください。

1. ボルトを取り外してテールパイプをマフラーから引き出します。



1. テールパイプ
2. ボルト

2. テールパイプを軽くたたいてからワイヤーブラシを使ってテールパイプのスパークアレスター部分と内部に堆積したカーボンを取り除きます。



1. スパークアレスター

3. テールパイプをマフラーに差し込み、規定のトルクでボルトを締め付けます。

締め付けトルク：
テールパイプボルト：
10 N·m (1.0 kgf·m)

要 点

テールパイプを差し込むとき、ボルトの穴が合わさるようにしてください。

JAU39931

キャブレターの調整

キャブレターはエンジンの重要な部品で、非常に高度な調整が要求されます。キャブレターの調整はヤマハ販売店で行ってください。ただし、以下に示す調整は日常の整備のひとつとしてご使用のかたご自身でも調整できます。

JCA10551

注 意

キャブレターは工場で調整され、広範囲にテストを受けています。技術的な知識がない人がセッティングを変更すると、エンジン性能が低下したり、エンジンを損傷することがあります。

7

JAU21363

エンジンアイドリング回転数の調整

エンジンアイドリング回転数は「定期点検項目（排ガス関連）」に従って点検し、必要に応じて以下の手順で調整を行ってください。

要　点

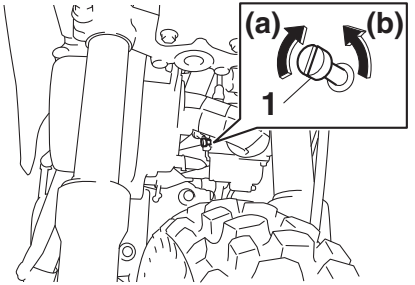
この調整を行うには、測定用のタコメーターが必要です。

1. 測定用のタコメーターをスパークプラグのリード線に取り付けます。
2. エンジンを 2 ～ 3 分間、アイドリング運転します。その後 4000 ～ 5000 回転まで回転を上げ、スロットルレスポンスを確認します。

要　点

スロットルレスポンスが良くなれば、エンジンは暖まっています。

3. エンジンのアイドリング回転数を点検します。調整が必要な場合は、スロットルストップスクリューを調整しながら規定のエンジン回転数に設定します。エンジン回転数を上げるにはスクリューを (a) 方向に回します。エンジン回転数を下げるにはスクリューを (b) 方向に回します。



1. スロットルストップスクリュー

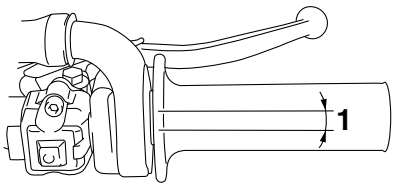
アイドリング回転数：
1600–1800 r/min

要　点

以上の手順で規定のアイドリング回転数に設定できない場合、ヤマハ販売店で調整を行ってください。

JAU21386

スロットルグリップの遊びの調整



1. スロットルグリップの遊び

スロットルグリップの遊びが規定の範囲にあるかを点検します。

スロットルグリップの遊び：
4.0–6.0 mm

定期的にスロットルグリップの遊びを点検し、必要に応じてヤマハ販売店に点検調整を依頼してください。

JAU21403

バルブクリアランス

バルブはエンジンの重要な構成部品です。バルブクリアランスは車の使用とともに変化するため、不適切な空燃比やエンジンの騒音につながります。この発生を防ぐため、「定期点検項目（排ガス関連）」に指示された時期にヤマハ販売店でバルブクリアランスの調整を行ってください。

要　点

この調整は、エンジンが冷えている状態で行ってください。

JAU64472

タイヤ

車の性能と耐久性を最大限に引き出しながら安全に乗っていただくために、指定のタイヤについて以下の点に注意してください。

タイヤ空気圧

タイヤ空気圧は乗車前に毎回点検して、必要に応じて調整してください。

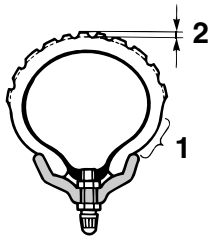
JWA15371

⚠警 告

空気圧の確認は、タイヤが冷えている状態で(タイヤの温度と外気温が同じときに)行ってください。

タイヤ空気圧：
前輪：
100 kPa (1.00 kgf/cm²)
後輪：
100 kPa (1.00 kgf/cm²)

タイヤの点検



1. サイドウォール
2. 溝の深さ

タイヤは乗車前に毎回点検してください。タイヤ中央の溝の深さが使用限度に達していたり、釘やガラスの破片が刺さっていたり、あるいはサイドウォールに異常がある場合は、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

タイヤの溝の深さの使用限度：
4.0 mm

タイヤの情報

この車はチューブタイヤを装備しています。

JWA10462

⚠警 告

- **前後輪ともに同じメーカー、同じデザインのタイヤを使用してください。そうしなかった際のハンドリングの特性について、一切保証しません。**

● ヤマハが、長期試験を経てこのモデル用に認定したタイヤは、下記のリストのものです。

前輪：
サイズ：
2.50-14 4PR
メーカー／型式：
CHENG SHIN/C-803
後輪：
サイズ：
3.00-12 4PR
メーカー／型式：
CHENG SHIN/C-803

JWA15542

⚠警 告

● 過度にすり減ったタイヤはヤマハ販売店で交換してください。過度にすり減ったタイヤで運転すると操縦安定性が低下し、制御不能になるおそれがあります。
● タイヤを含め、ホイールやブレーキ関連の部品交換はヤマハ販売店で行ってください。
● タイヤの交換をした後は、タイヤがリムに完全になじむよう、「ならし運転」をしてください。タイヤが完全になじんでいないと、車の損傷や運転者のケガにつながるおそれがあります。

JAU21945

スポークホイール

JWA10611

⚠警 告

このモデルのホイールは、チューブレスタイヤ用に設計されておりません。チューブレスタイヤは使用しないでください。

バイクの性能と耐久性を最大限に引き出しながら、永く、安全に乗っていただくために、指定ホイールに関する以下のポイントに注意してください。

● ホイールのリムにひびや曲がり、歪みやスポークのゆるみ、損傷がないか、乗車前に毎回点検してください。損傷があった場合、ヤマハ販売店でホイールを交換してください。ホイールに関してはたとえ小さな修理であっても行わないでください。変形したり、ひびが入っているホイールは必ず交換してください。
● スポークに緩みがないか確認します。緩みがあった場合、ヤマハ販売店でスポークの張りを調整してください。スポークの不適正な締め付けは、ホイールの振れを起こす原因となります。
● タイヤかホイールのどちらかを交換したら、必ずホイールのバランス取りを行ってください。ホイールのバランスが取れていないと、性能の低下やハンドリング特性の悪化、タイヤの寿命が縮まるおそれがあります。

JAU46081

アクセサリーと交換部品

JWA14482

⚠警 告

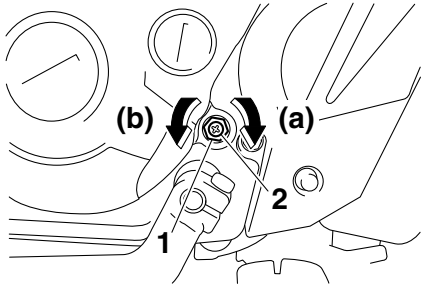
アクセサリーや交換部品は、この車用に設計されたものでなければなりません。また、設計上の本来の安定性が維持されるよう、確実に装着されなければなりません。ヤマハ純正部品とアクセサリーは、あなたのお車に合うよう設計され、テストされています。ご購入前にヤマハ純正部品とアクセサリーのことを考慮に入れてください。ヤマハが認可していないアクセサリーや交換部品の使用は、操縦安定性や安全運転に支障があることもあります。ヤマハは他社製のアクセサリーや部品の品質について管理できませんので、ヤマハが認可していない部品の使用によって起きるあらゆる結果に対しては責任を負いかねます。

JAU44664

クラッチの遊びの調整

クラッチの遊びは、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期に点検し、必要に応じて以下の手順で調整を行ってください。

1. ロックナットをゆるめます。
2. クラッチ調整用のアジャスターを、抵抗が感じられるまで (a) 方向にゆっくり回した後、(b) 方向に 1/8 回転戻します。



1. ロックナット
2. クラッチアジャスター

3. ロックナットを規定トルクで締め付けます。

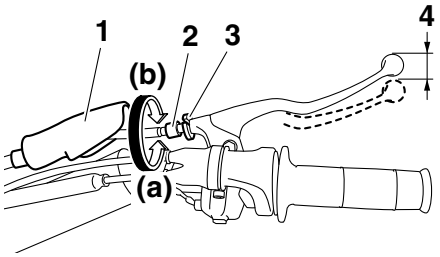
締め付けトルク：
ロックナット：
8 N·m (0.8 kgf·m)

要　点

ドライバーなどでアジャスターを固定したまま、ロックナットを締め付けます。

JAU44886

ブレーキレバーの遊びの調整



1. ゴムカバー
2. アジャスター
3. ロックナット
4. 遊び

レバー先端部の遊びが規定の範囲にあるかを点検します。

ブレーキレバーの遊び
10.0–20.0 mm

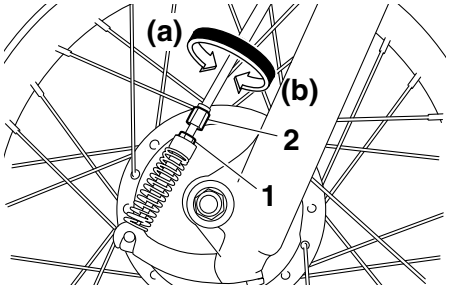
ブレーキレバーの遊びは定期的に点検し、必要に応じて以下の手順で調整を行ってください。

1. ゴムカバーをずらします。
2. ブレーキレバー部のロックナットをゆるめます。
3. ブレーキレバーの遊びを増やすときはアジャスターを (a) 方向に回します。ブレーキレバーの遊びを減らすときはアジャスターを (b) 方向に回します。

要　点

上記の手順で、ブレーキレバーの遊びを規定の範囲に調整できた場合は、手順 8 に進んでください。

4. ブレーキレバー部のアジャスターを (a) 方向にいっぱいまで回して、ブレーキケーブルをゆるめます。
5. ブレーキシュープレート部のロックナットをゆるめます。
6. ブレーキレバーの遊びを増やすときは、ブレーキシュープレート部のアジャスターを (a) 方向に回します。ブレーキレバーの遊びを減らすときはアジャスターを (b) 方向に回します。

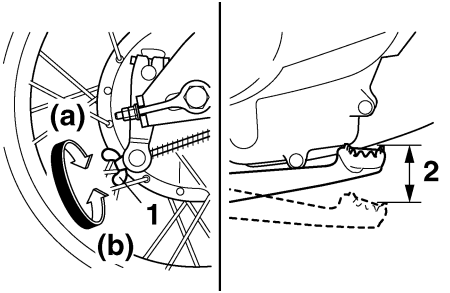


1. ロックナット
2. アジャスター

7. ブレーキシュープレート部のロックナットを締め付けます。
8. ブレーキレバー部のロックナットを締め付け、ゴムカバーを元の位置に戻します。

JAU44673

ブレーキペダルの遊びの調整



1. アジャスター
2. 遊び

ブレーキペダルの遊びが規定の範囲にあるかを点検します。

ブレーキペダルの遊び
10.0–20.0 mm

ブレーキペダルの遊びは定期的に点検し、必要に応じて以下の手順で調整を行ってください。
ブレーキペダルの遊びを増やす時はアジャスターを (a) 方向に、ブレーキペダルの遊びを減らす時はアジャスターを (b) 方向に回します。

JWA14821

⚠ 警 告

- **ドライブチェーンの張り調整後やリヤホイールの脱着後は、必ずブレーキペダルの遊びを点検してください。**

● **説明のとおりに正しく調整できない場合には、ヤマハ販売店に調整を依頼してください。**

JAU44821

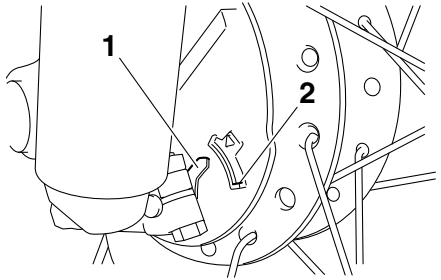
シフトペダルの点検

シフトペダルがスムーズに動くか、乗車前に毎回点検してください。スムーズに動かない場合は、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU22363

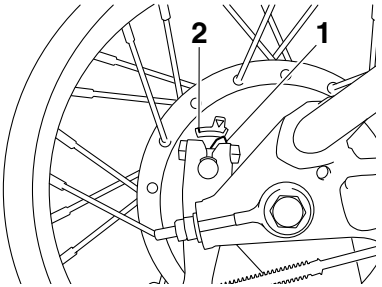
フロントおよびリヤブレーキシューの点検

フロント



1. インジケーター
2. ブレーキシュー使用限度

リヤ



1. インジケーター
2. ブレーキシュー使用限度

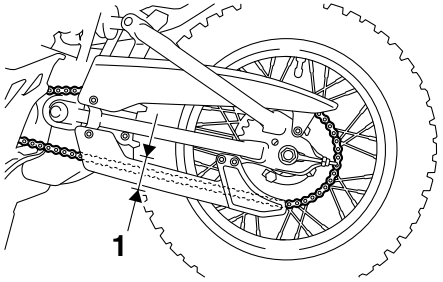
フロントおよびリヤブレーキシューは「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期に摩耗の点検を行ってください。各ブレーキはウェアインジケーターを備えており、ブレーキを分解しなくてもブレーキシューの摩耗を確認することができます。ブレーキシューの摩耗を点検するには、ブレーキをいっぱいに作動させてインジケーターの示す位置を確認します。インジケーターが摩耗限度に達したらブレーキシューの使用限度です。ヤマハ販売店でブレーキシューをセットで交換してください。

JAU22762

ドライブチェーン

JAU74253

ドライブチェーンの点検



1. ドライブチェーンのたわみ量

ギヤをニュートラルにしてサイドスタンドを立てます。前後スプロケット間のチェーン中央部を手で上下に動かし、たわみ量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

要　点

ドライブチェーンのたわみ量を点検するときは、車体に荷重を掛けないで行います。

ドライブチェーンたわみ量：
40.0–56.0 mm

ドライブチェーンのたわみ量が規定の範囲にない場合は、たわみ量を調整します。

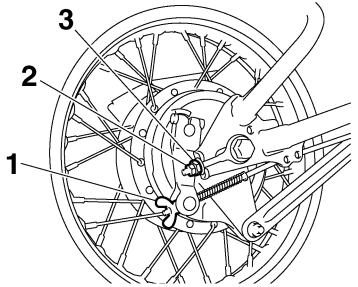
ドライブチェーンたわみ量の調整は、ヤマハ販売店にご相談ください。
また、車体を前後にゆっくり動かしてチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。

JAU40116

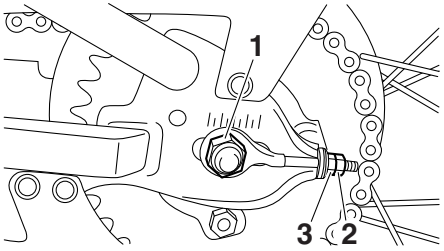
チェーンの張り調整

チェーンの張り調整を行う前にヤマハ販売店にご相談ください。

1. ブレーキペダル調整用のアジャスターとアクスルナット、スイングアーム両側のロックナットをゆるめます。



1. アジャスター
2. ロックナット
3. ドライブチェーン調整ナット

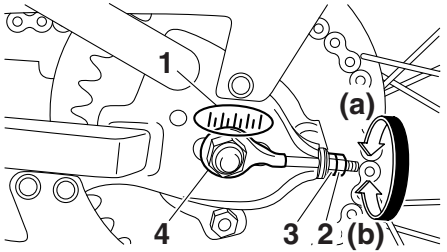


1. アクスルナット
2. ロックナット
3. ドライブチェーン調整ナット

2. ドライブチェーン調整ナットはスイングアーム両側にあります。チェーンを張るにはドライブチェーン調整ナットを (a) 方向に回します。チェーンをゆるめるにはドライブチェーン調整ナットを (b) 方向に回して、リヤホイールを前側へ押します。

要　点

ドライブチェーン調整ナットは左右均等に調整します。左右のチェーンプラーが、刻み目盛りの同じ位置にあるか確認します。



1. 刻み目盛り
2. ロックナット
3. ドライブチェーン調整ナット
4. チェーンプラー

3. アクスルナットおよびスイングアーム両側のロックナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
アクスルナット：
60 N·m (6.0 kgf·m)
ロックナット：
7 N·m (0.7 kgf·m)

4. ブレーキペダルの遊びを調整します。(7-16 ページ参照)
5. 左右の刻み目盛りが同じ位置にあるか、ドライブチェーンたわみ量が規定の範囲にあるか、チェーンが滑らかに回転するか確認します。

JAU23018

ドライブチェーンの給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながらチェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを、柔らかいブラシなどで落とします。その後、ヤマルーブスーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにヤマルーブ 180 チェーンオイルを給油します。

JAU54121

ケーブルの点検と注油

すべてのコントロールケーブルの作動の状態を乗車前に毎回点検し、必要に応じてケーブルとケーブルのエンド部に注油します。ケーブルが損傷していてスムーズに動かない場合は、ヤマハ販売店に点検整備を依頼してください。

推奨する潤滑剤：
ヤマルーブ 180 ワイヤーグリース

JWA10712

⚠警 告

ケーブルのアウターハウジングに損傷があると錆が発生し、ケーブルの作動を妨げる原因となります。危険な状態を防止するため、損傷を受けたケーブルはできるだけ早く交換してください。

JAU23115

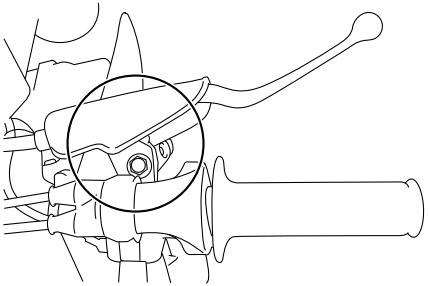
スロットルグリップおよびケーブルの点検と注油

スロットルグリップの作動は、乗車前に毎回点検してください。また、ケーブルは、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期になったら、ヤマハ販売店に注油を依頼してください。

スロットルケーブルには、ゴムカバーが取り付けられています。ゴムカバーが確実に取り付けられていることを確認し、洗車時にはゴムカバーに直接水をかけないようにしてください。ゴムカバーの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などでふき取ってください。

JAU43623

ブレーキレバーの点検と注油



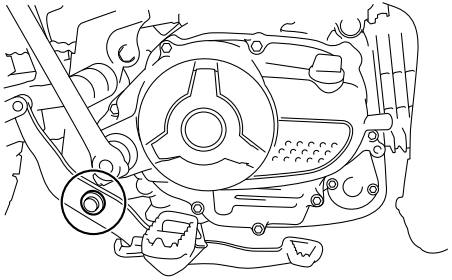
ブレーキレバーは、乗車前に毎回作動を点検し、必要に応じて作動部に注油してください。

推奨する潤滑剤：
ヤマハグリース B

JAU23185

ブレーキペダルの点検と注油

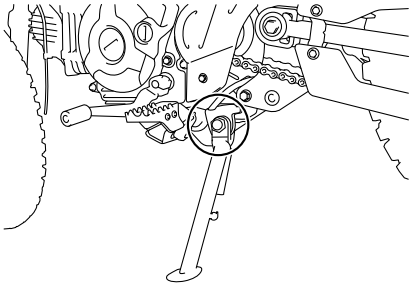
ブレーキペダルの作動は乗車毎に点検し、必要に応じてペダルの取り付け部に注油します。



推奨する潤滑剤：
ヤマハグリース B

JAU23203

サイドスタンドの点検と注油



サイドスタンドは、乗車前に毎回作動を点検し、必要に応じて作動部に注油してください。

JWA10732

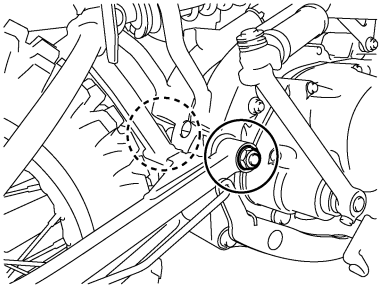
⚠警 告

サイドスタンドの動きがスムーズでない場合は、ヤマハ販売店に点検、修理を依頼してください。

推奨する潤滑剤：
ヤマハグリース B

JAUM2703

スイングアームピボットの注油



スイングアームピボットは、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期になったら、ヤマハ販売店に注油を依頼してください。

推奨する潤滑剤：
ヤマハモリブデングリース

7

JAU28621

車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。
異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU23273

フロントフォークの点検

フロントフォークの状態と作動は、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期に、次の手順で点検してください。

外観の点検

JWA10752

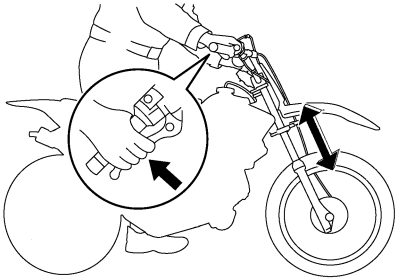
⚠警 告

車体はしっかりと支持して、転倒する危険がないようにしてください。

インナーチューブにかき傷や損傷、過度のオイル漏れがないか点検します。

作動の点検

1. 車体を平坦な場所に立て、直立した状態に保ちます。
2. フロントブレーキをかけながらハンドルを数回強く押し下げて、フォークがスムーズに伸縮し、弾力があるか確認します。



JCA10591

注 意

何らかの損傷が見られたり、フロントフォークがスムーズに作動しない場合は、ヤマハ販売店に点検、修理を依頼してください。

JAU23285

ステアリングの点検

ステアリングのベアリングが摩耗していたり緩んでいたりすると、大変危険です。したがって、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期にステアリングの作動性を点検してください。

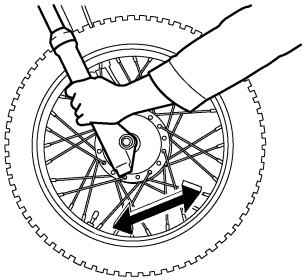
1. 前輪を浮かせます。(7-25 ページ参照)

JWA10752

⚠ 警 告

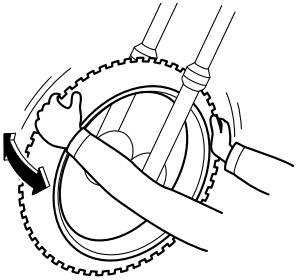
車体はしっかりと支持して、転倒する危険がないようにしてください。

2. フロントフォークの先端をつかんで、前後に動かし、異常なガタつきがある場合は、ヤマハ販売店にステアリングの点検、修理を依頼してください。



JAU23292

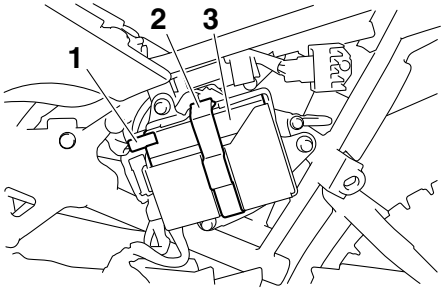
ホイールベアリングの点検



フロントおよびリヤのホイールベアリングは、「定期点検整備項目（一般）と給油」で指定する時期に従って注油してください。ホイールハブに遊びがあったり、ホイールがスムーズに回転しない場合は、ヤマハ販売店でホイールベアリングの点検整備を受けてください。

JAU23397

バッテリー



1. バッテリーカプラー
2. バッテリーバンド
3. バッテリー

バッテリーはカバー B の後ろにあります。(7-5 ページ参照)
この車両のバッテリーは密閉式です。バッテリー液の補充、点検は不要ですが、バッテリーカプラーを確認し、必要に応じてしっかりと固定してください。

JWA10761

⚠ 警 告

- **電解液は硫酸を含むため有毒で危険です。硫酸は大やけどを引き起こしますので、バッテリーの近くで作業するときには皮膚や目、衣服に触れないようにするとともに、両眼を保護してください。触れてしまった場合は、次の応急処置を施してください。**
  - **皮膚についた場合：大量の水で洗い流します。**

- **誤飲した場合：大量の水または牛乳を飲み、直ちに医師を呼びます。**
- **目に入った場合：15 分間以上水で洗い流し、速やかに医師の治療を受けます。**

● バッテリーは引火性ガスが発生します。したがって、バッテリーには火花や炎、タバコなどを近づけないでください。屋内で充電するときは十分な換気をしてください。

● バッテリーに子供が近づかないようにしてください。

バッテリーの充電

バッテリーが放電していると思われる場合は、できるだけ早くヤマハ販売店でバッテリーを充電してください。オプションの電装系統のアクセサリーを装備している場合は、バッテリーの放電が早まりますのでご注意ください。

JCA16522

注 意

密閉式バッテリーを充電するには、特殊な（定電圧）充電器が必要です。通常の充電器を使うとバッテリーを傷めます。

バッテリーの保管

1. 車両を1ヶ月以上使わない場合はバッテリーを取り外し、完全に充電して涼しい乾燥した場所に保管してください。

JCA16323

注 意

バッテリーを取り外すときは、必ずメインスイッチをOFFにしてからバッテリーカプラーを外してください。

2. 2ヶ月以上にわたってバッテリーを保管する場合は、少なくとも月に１度は点検し、必要に応じて充電してください。
3. バッテリーは取り付ける前に完全に充電してください。

JCA16931

注 意

バッテリーを取り付けるときは、必ずメインスイッチを OFF にしてからバッテリーカプラーをつないでください。

JCA16531

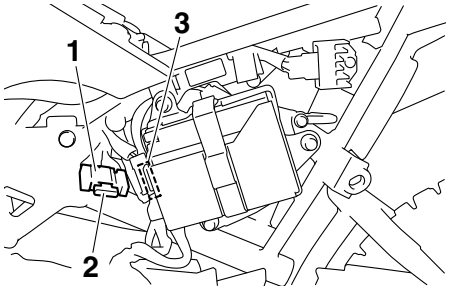
注 意

バッテリーは常に充電しておきます。放電した状態で保管しておくと、機能が回復できず、バッテリーが使用できなくなります。

JAU50432

ヒューズの交換

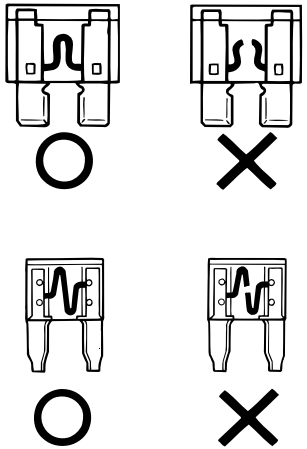
ヒューズはバッテリーカプラーにセットされています。（7-23 ページ参照）



1. バッテリーカプラー
2. メインヒューズ
3. スペアヒューズ

ヒューズが切れたときは、以下のように交換します。

1. メインスイッチを OFF にします。
2. バッテリーカプラーを取り外します。
3. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。



規定ヒューズ：
10.0 A

JCA10641

注 意

- **交換するヒューズは、規格外のものを使用しないでください。**
- **指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。**
- **洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。**

4. バッテリーカプラーを取り付けます。
5. メインスイッチを ON にします。
6. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

JAU24351

車体の支持

このモデルはメインスタンドを装備していませんので、フロントホイールやリヤホイールを取り外したり、車体を支持する必要のある整備を行う際には以下に示すようにして車体を支持してください。

フロントホイール

1. 車体の後部をオートバイ用のスタンドを使って支持します。オートバイ用のスタンドがない場合はリヤホイール前方のフレーム下部にジャッキをかけて支持してください。
2. オートバイ用スタンドを使ってフロントホイールを地面から持ち上げます。

リヤホイール

オートバイ用スタンドを使ってリヤホイールを地面から持ち上げます。オートバイ用のスタンドがない場合はリヤホイール前方のフレーム下部、またはスイングアームの両側にジャッキをかけて支持してください。

フロントホイール

JAU24361

JAU56491

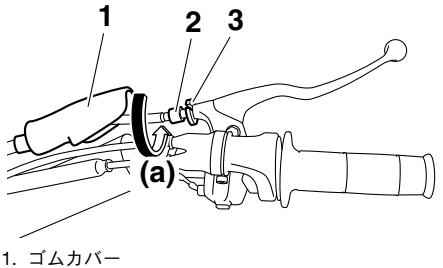
フロントホイールの取り外しかた

JWA10822

⚠警 告

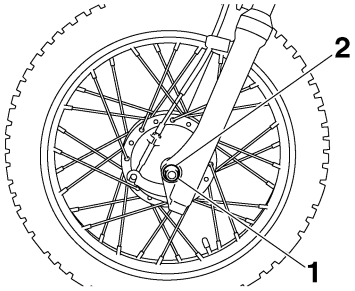
- **ホイールの修理は、ヤマハ販売店に依頼することをおすすめします。**
- **車体はしっかりと支持して、転倒する危険がないようにしてください。**

1. ブレーキレバーのゴムカバーをずらします。
2. ロックナットをゆるめ、ブレーキレバーのアジャスターを（a）方向にいっぱいまで回します。



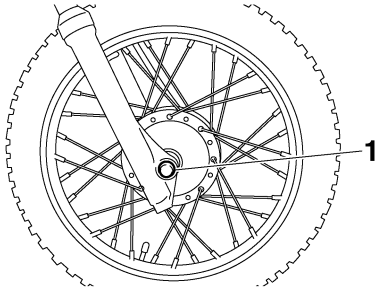
1. ゴムカバー
2. アジャスター
3. ロックナット

3. アクスルナットをゆるめます。



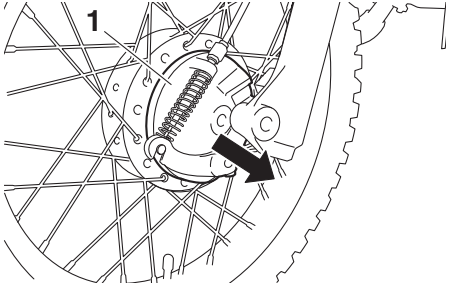
1. アクスルナット
2. ワッシャー

4. フロントホイールを地面から持ち上げます。（7-25 ページ参照）
5. アクスルナットとワッシャーを取り外します。
6. ホイールアクスルを引き抜きます。



1. ホイールアクスル

7. ブレーキシューを引き出して、ホイールハブから取り外します。



1. ブレーキシュー

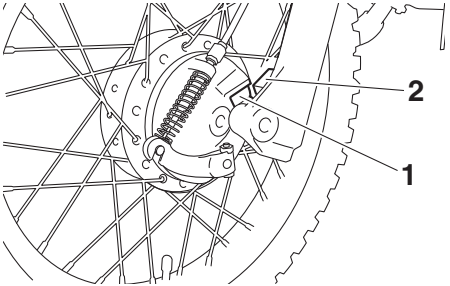
8. フロントホイールを取り外します。

フロントホイールの取り付けかた

1. ブレーキシューをホイールハブに取り付けます。
2. フロントフォークの間にホイールを入れて持ち上げます。

要 点

ブレーキシュープレートの溝がフロントフォークのリテーナーに合うように組み付けます。



1. 溝
2. リテーナー

3. ホイールアクスルを右側から差し込み、ワッシャーとアクスルナットを取り付けます。
4. フロントホイールを地面に降ろし、サイドスタンドをかけます。
5. アクスルナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
アクスルナット：
35 N·m (3.5 kgf·m)

6. ブレーキレバーの遊びを調整します。(7-15 ページ参照)
7. フロントブレーキをかけながら、ハンドルバーを何度か強く上下に押して、フロントフォークが正常に作動するか確認します。

JAU25081

リヤホイール

JAU56801

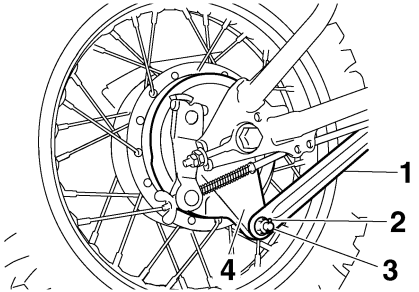
リヤホイールの外し方

JWA10822

⚠ 警 告

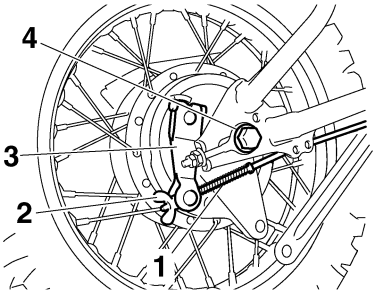
- **ホイールの修理は、ヤマハ販売店に依頼することをおすすめします。**
- **車体はしっかりと支持して、転倒する危険がないようにしてください。**

1. コッタピン、ナット、ボルトを取り外し、ブレーキトルクロッドをブレーキシュープレートから取り外します。



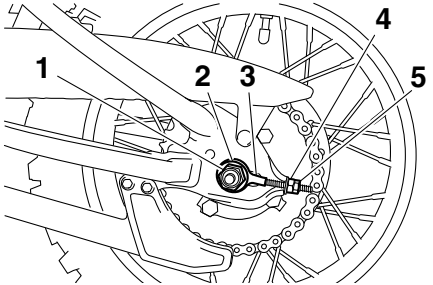
1. トルクロッド
2. コッタピン
3. ボルト / ナット
4. ブレーキシュープレート

2. ブレーキペダル調整用のアジャスターを取り外し、ブレーキロッドをブレーキカムシャフトレバーから取り外します。



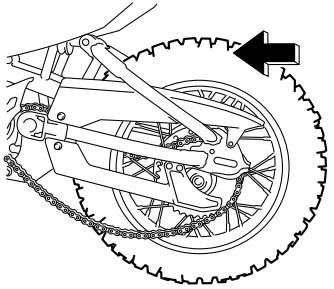
1. ブレーキロッド
2. アジャスター
3. ブレーキカムシャフトレバー
4. ホイールアクスル

3. スイングアーム両側のロックナットとドライブチェーン調整ナットをゆるめます。



1. アクスルナット
2. ワッシャー
3. チェーンプラー
4. ドライブチェーン調整ナット
5. ロックナット

4. アクスルナットをゆるめます。
5. リヤホイールを地面から持ち上げます。(7-25 ページ参照)
6. 左側のアクスルナット、ワッシャー、チェーンプラーを取り外し、右側からチェーンプラーと一緒にホイールアクスルを引き抜きます。
7. ホイールを前方に押して、ドライブチェーンをリヤスプロケットから取り外します。



要　点

ホイールを取り外したり、取り付けたりするためにチェーンを分解する必要はありません。

8. ホイールを取り外します。

リヤホイールの取り付けかた

1. リヤスプロケットにドライブチェーンを取り付けます。
2. リヤホイールを地面から持ち上げます。右側からホイールアクスルを差し込み、チェーンプラーとホイールを取り付けます。
3. 反対側のチェーンプラー、ワッシャー、アクスルナットを取り付けます。
4. リヤホイールを地面に降ろし、サイドスタンドをかけます。
5. ブレーキロッドをブレーキカムシャフトレバーに取り付けて、ブレーキロッドにブレーキペダル調整用のアジャスターを取り付けます。
6. トルクロッドをブレーキシュープレートに取り付けて、ボルトとナットを締め付けます。トルクロッドナットは規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
トルクロッドナット：
26 N·m (2.6 kgf·m)

7. 新しいコッタピンを取り付けます。
8. ドライブチェーンのたわみ量を調整します。(7-18 ページ参照)
9. アクスルナットと両側のロックナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
アクスルナット：
60 N·m (6.0 kgf·m)
ロックナット：
7 N·m (0.7 kgf·m)

10. ブレーキペダルの遊びを調整します。(7-16 ページ参照)

JAU25853

こんなときは

ヤマハ車は工場から出荷前に入念に点検されていますが、使用中にトラブルが発生することがあります。燃料、圧縮、点火装置のトラブルは始動不良やパワーの低下を引き起こす原因となります。
次ページのトラブルシューティングチャートには、これらの重要なシステムをご自身で点検するための手軽な手順が記載されています。点検して、修理の必要がある場合にはヤマハ販売店に車両を持ち込んでください。専用の工具を使って経験、知識の豊富な整備士が適切に修理を行います。
部品を交換するときは、必ずヤマハ純正部品を使用してください。類似部品は、ヤマハ純正部品と似ていますが、しばしば性能で劣ることがあり、長持ちしないため、結局、修理費用が高くつくことがあります。

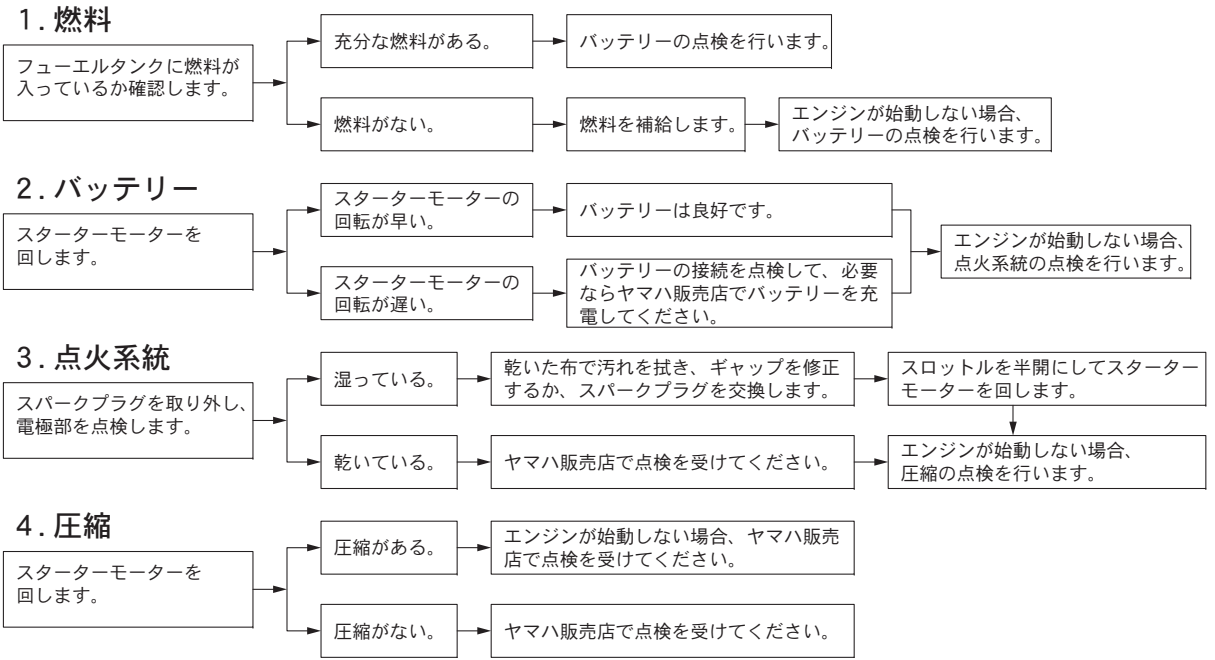
JAU25905

トラブルシューティングチャート

JWA10841

⚠ 警 告

燃料系統は、必ずタバコなどの火気がないところで点検作業してください。



JAU40466

お車の手入れ

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。すみずみまで清掃すれば、普段気付かない異状箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

清掃前

1. エンジンが冷えた後、マフラー出口をビニール袋で覆います。
2. スパークプラグキャップを含む全ての電装カプラーやコネクター、およびキャップやカバーが正しく取り付けられていることを確認します。
3. クランクケース上の焼き付いたオイルのような落ちにくい汚れは、脱脂剤とブラシで取ってください。ただし、脱脂剤をシール、ガスケット、スプロケット、ドライブチェーン、ホイールアクスルには決して使わないでください。汚れと脱脂剤は水で洗い落としてください。

清掃

JCA10773

注 意

● 強酸性のホイールクリーナーの使用（特にスポークホイールへの使用）は避けてください。落ちにくい泥汚れを落とすのにこのような製品を使用する場合は、クリーナーの使用説明書で指示された時間以上は決して放置しないでください。また水で完全に洗い流したあと、すぐに乾かし、防錆潤滑剤を塗布してください。

● ウィンドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが充分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。

● コンパウンドの入ったワックスは、プラスチック部品を傷つけますので使用しないでください。強力洗剤、研磨剤、溶剤、シンナー、燃料（ガソリン）、錆取り剤、錆止め剤、ブレーキフルード、不凍液、バッテリー液などの付着した布やスポンジは使用しないでください。

● 高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、以下の部分の故障の原因となります。：シール類（ホイールやスイングアームのベアリング、フロントフォーク、ブレーキ）、電装品（カプラー、コネクター、計器、スイッチ、ライト）、ブリーザーホース、ベントホース

● ウィンドシールドを装備している車両について：強力なクリーナーや固いスポンジは、曇りや傷の原因となりますので使用しないでください。プラスチック用コンパウンドの中には、ウインドシールドを傷付けるものがあります。あらかじめ目立たない場所で試してからご使用ください。ウインドシールドに傷がついた場合は、洗車したあとで、試用して確認済みのプラスチック用コンパウンドを使用してください。

通常の使用後

汚れをぬるま湯、中性洗剤、清潔で柔らかなスポンジで落としてください。その後、きれいな水で完全に洗い流してください。手の届きにくい箇所は、歯ブラシあるいは細めの毛ブラシを使用してください。落ちにくい汚れや虫の死骸などは、清掃前に濡れた布を２～３分間かぶせておくと落ちやすくなります。

雨天、あるいは海辺での走行後

海水に含まれる塩分は腐食性が高いため、雨天あるいは海辺での走行をする度に以下の手順で清掃を行なってください。

1. エンジンが冷えた後、車を冷水と中性洗剤で洗車します。

JCA10792

注 意

温水は塩分の腐食性を促進させますので、使用しないでください。

2. メッキ部を含む全ての金属の表面に、腐食を防ぐために防錆潤滑剤をかけてください。

洗車後

1. セーム皮か吸収性のある布で水気をよく拭き取り、乾かします。

2. すみやかにドライブチェーンを乾かし、錆を防ぐためヤマルーブ 180 チェーンオイルを給油します。
3. 金属磨き剤を使ってエキゾーストシステムを含むクローム、アルミニウム、ステンレス部品を磨きます。（ステンレスエキゾーストシステムが熱によって引き起こされた変色も、金属磨き剤で取り除くことができます。）
4. 腐食を防ぐため、メッキ部を含む全ての金属の表面に、防錆潤滑剤をかけることをおすすめします。
5. スプレーオイルを使用して残った汚れを取り除きます。
6. 石はねなどによる塗装面の傷を修正します。
7. 塗装面にワックスをかけます。
8. 保管またはカバーをかける前に車を完全に乾かします。

JWA14502

⚠ 警 告

- **ブレーキやタイヤには、オイルやワックスを付着させないでください。**
- **必要なら、温水と中性洗剤でタイヤを洗浄してください。洗浄後、低速で走行してブレーキやコーナリング性能を点検してください。**

JCA10801

注 意

- **スプレーオイルやワックスは少量を塗布し、ふき残しのないようにしてください。**
- **ゴムやプラスチックの部品に、プラスチック、ゴム用以外のオイルやワックスを塗布しないようにしてください。**
- **研磨剤は塗装が剥がれる原因となりますので、使用しないでください。**

要 点

アフターケア用品については、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU26153

保管のしかた

短期の保管

常に涼しくて乾燥した場所に保管してください。必要であれば、通気性のあるカバーをかけてほこりを防いでください。
なお、ボディーカバーはマフラーが冷えてからかけてください。

JCA10811

注 意

- **水分が残ったまま、通気性の悪い場所で車両を保管したり、通気性のないカバーをかけたりすると、錆の原因となります。**
- **錆を防ぐため、湿気のある場所、家畜小屋（アンモニアが発生するため）、強力な薬品が保管されている場所を避けてください。**

長期の保管

数か月間車を保管する前に：

1. この章の「お車の手入れ」の指示に従ってください。
2. “OFF” 位置のあるフューエルコックを装備した車：フューエルコックを “OFF” の位置にします。
3. キャブレターのドレンボルトをゆるめ、キャブレターフロートチャンバー内の燃料を抜きます。これにより、キャブレター内に燃料の沈殿物が溜まることを防止します。抜いた燃料は燃料タンクに入れます。

4. 以下の手順を行い、シリンダー、ピストンリングなどの腐食を防ぎます。
   a. スパークプラグキャップとスパークプラグを外します。
   b. スプーン一杯分のエンジンオイルをスパークプラグの孔に入れます。
   c. スパークプラグキャップをスパークプラグに取り付け、その後スパークプラグをシリンダヘッドに置き、側方電極が確実にアースするようにします。（次の手順中、スパークプラグで放電されます。）
   d. スターターでエンジンを数回、回します。（シリンダー壁にオイルを付着させます。）
   e. スパークプラグキャップをスパークプラグから外し、その後スパークプラグとスパークプラグキャップを取り付けます。

JWA10952

⚠ 警 告

スパークによる傷害を防ぐため、エンジンを回転させる間はプラグの側方電極を確実に接地（アース）させてください。

5. 全てのケーブルとサイドスタンド/センタースタンド、全てのレバーとペダルの作動部に注油します。
6. タイヤ空気圧を点検し、必要であれば空気を入れます。その後、車をリフトアップして、両輪のホイールが地面から離れるようにします。それができない場合は、タイヤの接地部分に負荷がかかるのを防ぐため、毎月ホイールを少しずつ回して接地部分の位置を変えます。
7. マフラー出口をビニール袋で覆い、湿気が侵入するのを防ぎます。
8. バッテリーを取り外し、完全に充電した状態で湿気のない涼しい場所で保管し、1ヶ月毎に充電します。バッテリーは著しく温度の高い場所や低い場所（0°C 以下もしくは 30°C 以上）に保管しないでください。バッテリーの保管手順については 7-23 ページを参照してください。

要 点

車を保管する前に、必要な修理を行います。

JAU28087

アフターケア用品について

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

JAU28116

ヤマハ純正オイル

ヤマルーブ RS4GP

ヤマルーブシリーズ最高峰エンジンオイル。
ヤマルーブ RS4GP は、ヤマハ発動機の MotoGP レーシングチームにおいて技術開発されたテクノロジーを高次元でフィードバックしています。
高負荷、高回転での過酷な条件に耐える油膜保持性、せん断安定性に優れ、長時間安定して高い潤滑性能を発揮します。
高性能エンジンに適した、ヤマルーブシリーズ最高峰の高性能オイルです。
低摩擦特性・高い油膜保持性により、優れたスロットルレスポンスとシフトフィーリングを長時間安定して発揮します。

ヤマルーブプレミアムシンセティック

中・大型車両に最適な高品質二輪車用オイル。
大排気量モデルでの夏場の渋滞運転などエンジンには過酷な状況に強いオイル。
高温高負荷状況下で蒸発が少なく、高い酸化安定性能と油膜保持性能を発揮します。

ヤマルーブスポーツ
走行シーンを選ばないミドルグレードオイル。
価格と性能のバランスに優れ、排気量や車種を問わないオイル。
ストリートからロングツーリングまであらゆる走行シーンで安定した性能を発揮します。

ヤマルーブスタンダードプラス
経済的にも優れた、コストパフォーマンスオイル。
ヤマハ車の開発テストに使用され、工場出荷時にも充填されるベーシックオイル（一部車種を除く）。
コストパフォーマンスに優れ、スポーツ走行からタフな業務使用まで幅広い用途に対応。

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、次の URL を入力してホームページを参照するか、
「ヤマハ　バイク　オイル」というキーワードで検索してください。

https://www.ysgear.co.jp/mc/

ヤマハ　バイク　オイル　検索

寸法：
全長：
1565 mm
全幅：
680 mm
全高：
920 mm
シート高：
670 mm
軸間距離：
1080 mm
最低地上高：
180 mm

重量：
車両重量：
72 kg
最大乗員体重：
60.0 kg
乗車定員：
1 名

性能：
最小回転半径：
1.7 m

エンジン：
行程：
4 ストローク
冷却方式：
空冷
動弁機構：
SOHC
気筒数：
単気筒
総排気量：
110 cm³

フロントブレーキ：
ブレーキ形式：
機械式リーディングトレーリングドラムブレーキ

リヤブレーキ：
ブレーキ形式：
機械式リーディングトレーリングドラムブレーキ

フロントタイヤ：
種類：
チューブ有り
サイズ：
2.50-14 4PR
メーカー / 銘柄：
CHENG SHIN/C-803

リヤタイヤ：
種類：
チューブ有り
サイズ：
3.00-12 4PR
メーカー / 銘柄：
CHENG SHIN/C-803

動力伝達機構：
1 速：
3.166 (38/12)
2 速：
1.941 (33/17)
3 速：
1.380 (29/21)
4 速：
1.095 (23/21)

エレクトリカル：
電圧：
12V

エンジンオイル：
推奨オイル：
ヤマルーブ プレミアムシンセティック、スポーツ、スタンダードプラス

エンジンオイル量：
オイル交換時：
0.80 L

バッテリー：
バッテリー型式：
GT4B-5
バッテリー容量：
12 V, 2.5 Ah (10 HR)

スパークプラグ：
メーカー / 型式：
NGK/CR6HSA
プラグギャップ：
0.6–0.7 mm

ユーザー情報

JAU75220

ID 番号

車台番号、原動機番号、キーの ID 番号の情報を下記に記録しておき、ヤマハ販売店に部品を注文する時や、車が盗難にあった場合などに役立ててください。

車台番号：

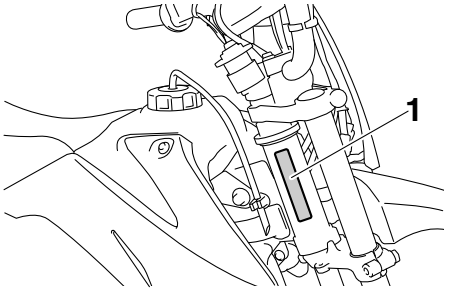
原動機番号：

キーの ID 番号情報：

10

JAU26401

車台番号



1. 車台番号

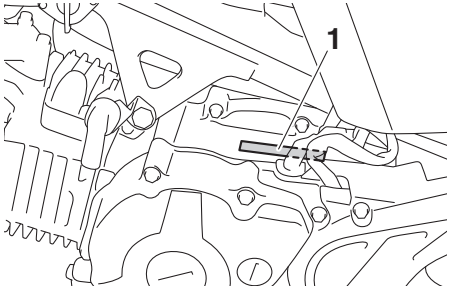
車台番号はステアリングヘッドパイプに打刻されています。指定の空欄にこの番号を控えておいてください。

要　点

車台番号は自分の車であることを識別するために使用します。

JAU26442

原動機番号

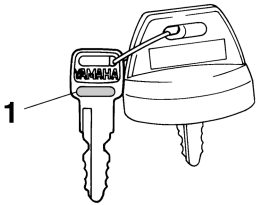


1. 原動機番号

原動機番号はクランクケースに打刻されています。

JAU26391

キーの ID 番号



1. キー番号

キーの ID 番号は、キーに打刻されています。所定の空欄にこれを控えておいて、新しいキーを注文するときには、この番号をお知らせください。

JAU36644

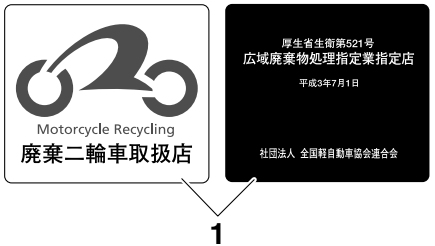
二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

一般社団法人　全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



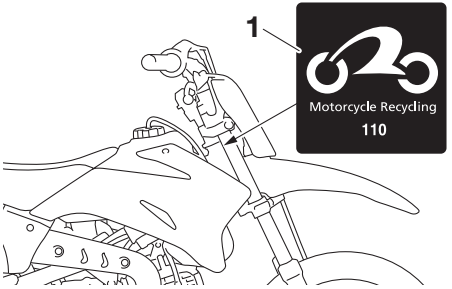
1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。
廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。
剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記のホームページへお願いします。
ヤマハ発動機（株） 二輪車リサイクルシステム
https://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/
公益財団法人 自動車リサイクル促進センターホームページ
https://www.jarc.or.jp/motorcycle/

JAU28393

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。
サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

サービスマニュアル 部品番号：

QQS-CLT-000-BMA

10

あ
ID 番号 10-1
アクセサリーと交換部品 7-14
アフターケア用品について 8-3

え
エアクリーナーエレメントの清掃 7-9
エンジンアイドリング回転数の調整 7-12
エンジンオイル 7-7
エンジン始動（エンジンが暖まっているとき） 6-2
エンジン始動（エンジンが冷えているとき） 6-1

お
お車の手入れ 8-1

か
カバーの取り外し、取り付け 7-5

き
キーの ID 番号 10-1
キックスターター 4-6
ギヤチェンジのしかた 6-2
キャブレターの調整 7-11

く
クラッチの遊びの調整 7-15

け
ケーブルの点検と注油 7-20
原動機番号 10-1

こ
こんなときは 7-29

さ
サービスツール 7-1
サービスマニュアル（別売）の紹介 10-3
サイドスタンド 4-7
サイドスタンドの点検と注油 7-21

し
シート 4-6
シフトペダル 4-2
シフトペダルの点検 7-17
車体各部の給油脂状態の点検 7-22
車体の支持 7-25
車台番号 10-1

す
スイングアームピボットの注油 7-21
スタータースイッチ 4-1
スターティングサーキットカットオフシステム 4-7
ステアリングの点検 7-23
スパークアレスターの清掃 7-11
スパークプラグの点検 7-6
スポークホイール 7-14
スロットルグリップおよびケーブルの点検と注油 7-20
スロットルグリップの遊びの調整 7-12

た
タイヤ 7-13

ち
駐車 6-4
チョークレバー 4-5

て
定期点検項目（排ガス関連） 7-2
定期点検整備 7-1
定期点検整備項目（一般）と給油 7-3

と
ドライブチェーン 7-18
ドライブチェーンの給油 7-19
トラブルシューティングチャート ... 7-30

な
ならし運転 6-1

に
日常点検の実施 5-1
二輪車を廃棄する場合は？ 10-2

ね
燃料 4-4

は
バッテリー 7-23
バルブクリアランス 7-13
ハンドルスイッチ 4-1

ひ
ヒューズの交換 7-24

ふ
フューエルコック 4-5
フューエルタンクキャップ 4-3
フューエルタンクブリーザーホース ... 4-4
ブレーキ 6-3
ブレーキペダル 4-3
ブレーキペダルの遊びの調整 7-16
ブレーキペダルの点検と注油 7-21
ブレーキレバー 4-2
ブレーキレバーの遊びの調整 7-15
ブレーキレバーの点検と注油 7-20
フロントおよびリヤブレーキシューの点検 7-17
フロントフォークの点検 7-22
フロントホイール 7-26

索引

ほ
ホイールベアリングの点検 7-23
保管のしかた 8-2
め
メインスイッチ 4-1
り
リヤクッション 4-7
リヤホイール 7-27

あなたの街のあなたのお店

YAMAHA

QQS-CLT-100-BMA

PRINTED IN JAPAN
2022.07-0.3×1 CR (J)